

jica ジャイカ 横浜 2021年度

教師国内研修



撮影：2021年教師国内研修事務局

独立行政法人国際協力機構
横浜センター（JICA横浜）

目 次

教師国内研修について

教師国内研修とは	04
参加者一覧／日程	05
●本研修の参加動機	06
研修の軌跡	08

実践授業報告

小学校(3名)

金城 裕哉 (横浜市立高田東小学校) 「Let's think about 「Diversity」!! ～世界と自分のつながりを感じてみよう～」	14
三枝 涼輔 (横浜市立梅林小学校)「ゆいまーる」	22
●日系人・日本人移住者から学んだこと	27
渡辺 香 (横浜市立長津田小学校)「たぶん、か」	28

中学校(2名)

菊池 史織 (公文国際学園中等部・高等部)「たぶん、か」	32
●本研修参加前と後のご自身の变化	39
鳥原 大嗣 (横浜市立東野中学校)「たぶん、か」	40

高校(1名)

小島 寛子 (横浜市立横浜商業高等学校)「たぶん、可?」	46
●本研修からの最大の収穫は?	55

専門学校(1名)

森 倫範 (横浜医療専門学校)「困りごとを通じて、多文化共生を理解しよう」	56
●本研修に参加した感想	68
●授業実践を経て、学習者(児童・生徒)の変化、反応	69

ワークショップに関するデータ掲載 URL：
https://www.jica.go.jp/yokohama/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/report_2021.html

※この報告書に掲載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICAを代表するものではありません。
※参加者の所属等は、2021年度のものであります。

教師国内研修とは

1. 研修概要

教師国内研修は、講義、インタビュー、フィールドワーク等を実施し、その経験を国際理解教育・開発教育の実践に役立てていただくための研修プログラムです。
(「教師海外研修」の代替研修として実施いたします)

2. 研修のねらいとゴール

世界でも、地域でも、そして学校でも、誰もが安心して暮らせる「誰一人取り残さない」社会づくりにかかわる問題には、共通するものがあるはずです。本研修では、多文化共生社会、持続可能な社会の実現を目指し、世界、国内、地域の問題を自分事として捉えて、まずは教室から実践できる次代を担う子どもたちを育成することをねらいとします。

日本から海外に渡った日本人移住者の歴史や、海外から日本に戻ってきた人々の暮らし等に触れることを通して、多文化共生について理解を深めていただきます。研修で得た知識や経験をもとに、「持続可能な社会」「誰ひとり取り残さない」をテーマとした参加型学習教材(ワークショップ)作成を研修のゴールとします。

3. 応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

4. 研修期間

2021年7月～2022年3月 全8回と国内フィールドワークを実施

参加者一覧 (五十音順)

氏名	学校名	学年・担当教科
菊池 史織	公文国際学園中等部・高等部	中等部2年 英語
金城 裕哉	横浜市立高田東小学校	5、6年 外国語
小島 寛子	横浜市立横浜商業高等学校	1～3年 英語、国際
鳥原 大嗣	横浜市立東野中学校	2年 数学
三枝 涼輔	横浜市立梅林小学校	特別支援学級
森 倫範	横浜医療専門学校	生物学
渡辺 香	横浜市立長津田小学校	6年 英語、習字

日程

	日程	行程	内容
1回目	7月3日	オリエンテーション	研修内容の確認、チームビルディング
2回目	7月10日	開発教育	「開発教育教員セミナー基礎編」への参加
3回目	7月17日	日系人	資料館見学、日系ゲストトーク
フィールドワーク	8月7日、8日	多文化共生	いちょう団地、愛川町、鶴見地区でのフィールドワーク
4回目	8月21日	多文化共生	多文化共生、ワークショップ体験
5回目	9月4日	ワークショップ作成	ワークショップの作成
6回目	9月18日	ワークショップ作成	ワークショップの作成
7回目	10月2日	ワークショップ作成	実演&フィードバック会
-	10月～12月	各自授業実践	各所属先にて授業実践
8回目	1月16日	ワークショップのブラッシュアップ	ワークショップのブラッシュアップ
報告会	2月20日	報告	「SDGsよこはま」で最終報告会

本研修の 参加動機

オラ
ワクワクすっぞ!



WANTED



SHIORI KIKUCHI

本校は学校に寮が併設されており、国内外から生徒が入学します。また、留学生の受け入れや海外からの来校者を受け入れる機会も多くあります。本校が大切にしている「異質の他者を認める」精神にも通ずる多文化共生についてまずは自身が理解を深め、学びを活かし生徒たちの理解に繋がりたいと思いました。

菊池 史織 | 公文国際学園中等部・高等部
中等部2年 / 英語

WANTED



DAISHI TORIHARA

現在、外国につながるのある児童、生徒の数は年々増えています。また、そういった状況への対応に苦慮している先生方も多くいます。そこで自分にできることを考えたいと思い研修に参加しました。その結果、外国とのつながりに関係なく目の前の子ども達が抱えている不安や悩みと向き合うことの大切さに気づきました。

鳥原 大嗣 | 横浜市立東野中学校
2年 / 数学

WANTED

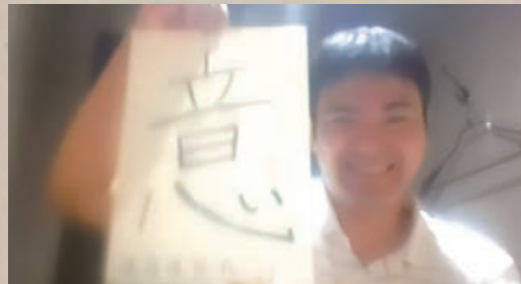


RYOSUKE MIEDA

だれもが安心して学校に通い、自分らしくいられる学校になるべく、まずは自分自身が多文化共生についての理解を深めたいと思いました。また、WSを取り入れた授業に興味があり、同じ思いをもつ先生と学びながら、自らWSを作成できるこの研修は絶好の機会だと思いました。

三枝 涼輔 | 横浜市立梅林小学校
特別支援学級

WANTED



YUYA KINJYO

外国語の目標に「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」があります。目標達成のためには、指導者自身が異文化体験、他者とのかわり方、多文化共生とは何かを深く考える機会が必要だと強く感じました。

金城 裕哉 | 横浜市立高田東小学校
5,6年 / 外国語

WANTED



HIROKO KOJIMA

自分自身の中にある、気が付いていない「バイアス」を見つけそれをなくしたいと思ったからです。外国につながる生徒たちと関わる中で、自分の視野の狭さ、未熟さを痛感しています。多文化共生を学ぶことで、彼らのありのままを受け入れられる自分になるため、この研修への参加を希望しました。

小島 寛子 | 横浜市立横浜商業高等学校
1~3年 / 英語、国際

WANTED



MICHINORI MORI

本校は一昨年度から日本語学科を開講し、学内にも外国にルーツを持つ学生が入学しました。その中で、現在の学生達が「多文化共生」を理解しているかに不安を感じていました。そんな折にJICA横浜の教師国内研修の応募を見つけ、是非私自身が学びたいと感じ応募しました。

森 倫範 | 横浜医療専門学校
生物学

WANTED



KAORI WATANABE

多文化共生社会について学び、私自身の成長や日々の授業に活かしたいと考えました。このコロナ禍で、交流や学びの機会が極端に減っているので非常に貴重な機会だと思い、迷わず応募しました。

渡辺 香 | 横浜市立長津田小学校
6年 / 英語、習字

研修の軌跡

第1回目：7月3日(土)

● チームビルディング

チームビルディングを目的に、自己紹介やチームのゴール、研修の進め方、そしてチームとして疑問・不思議に思った「モヤモヤ」を大切に、それを活かしながらゴールとする教材づくりに取り組むことを丁寧に共有しました。続いて、参加者が考える「多文化共生」の理想の姿と、児童生徒の現状を共有しました。多文化共生の理想イメージとして「違いを受け入れる」「お互いを尊重する」「安心安全な場であることが必要」「みんな違ってみんないい」などが挙がりました。また、国際理解教育／開発教育について知りたいこととして「バイアスをなくすためにはどのようにしたらいいか」「周囲の教員の巻き込み方」などが挙がり、今後の研修で習得すべき具体的なトピックが整理されました。

● ワークショップ体験

3つのワークショップを実際に体験し、児童・生徒・学生に考えて・気づいてほしいことを教員の側から「説得」するのではなく、体験を通して「納得」させることが大事であると理解したようでした。

1日のふりかえりとして、「納得感が大事!」「シンプルが大事」「何を話しても安心できる空間だ!」「プライバシーと属性の境界線はどこにあるのか」「単純化するにはどうしたらいいのか」などの意見が出されました。



第2回目：7月10日(土)

● 国際理解教育／開発教育 教員セミナー(基礎編)への参加

かながわ開発教育センター(K-DEC)代表の山西優二氏(早稲田大学教授)の講演から、国際理解教育／開発教育の基礎概念を学びました。

また、オンラインでのミニワークショップも体験し、手法や実践での注意点を体験的に学びました。研修参加7名以外の教員と情報交換する時間では、学校での取り組み、地域での取り組みを紹介し合う場面もあり、校種や職種を超えた交流から刺激を得ることができました。



第3回目：7月17日(土)

● 海外移住資料館見学

JICA 横浜施設内の海外移住資料館を見学しました。子どもたちにどのようなことを伝えられるかを考え、一つのワークショップをつくってみようという目標を持ちながら見学しました。



● 当事者の声を聞く

パネルディスカッション『外国につながるのある私たちと考える! 「日本」社会のこれからと学校の役割』にオブザーブ参加しました。外国に繋がりのある方や、学校教育に関わる方々のパネルディスカッションから、当事者が学校や日常生活で感じることや、サポートのありかたを学ぶことができました。

フィールドワーク：8月7日(土)、8日(日)

神奈川県内の多文化を学ぶためにフィールドワークに出かけました。横浜市立北上飯田保育園では、園児の約7割が外国にルーツを持っているという現状や、子どもや保護者との接し方、先生方の対応などをお聞きして多文化共生のヒントを得ることができました。愛川町では、南米やアジアにルーツを持つ人々が多く暮らす地域で、異なる文化的背景を持つ人々が共生している様子を実感しました。



鶴見地区では、在日朝鮮人、南米から移住して来られた日系人、沖縄から移住して来られた方々などが多く暮らし、「多文化共生のまちづくり」を行っている様子を肌で感じ、また、公益財団法人横浜市国際交流協会 鶴見国際交流ラウンジ館長補佐の沼尾実氏からは、他者に対する眼差しや寄り添う姿勢について深く学ぶことができました。



1日目の夜と2日目の夕方には、学びの整理として印象に残ったこと、モヤモヤしたこと、ワークに取り入れたい要素などを出し合い、「多文化共生」について考えるきっかけになるワークショップ作成に向けた話し合いを行いました。

コロナ禍という限られた環境下でも、国内でも、多くの学び、気づき、体験をすることができました。

第4回目：8月21日(土)

● ワークショップ骨子づくり

いよいよ本格的にワークショップ作成が始まります。ワークショップ作成の土台となるこれまでの学びや気づき、そして思いなどをまとめました。この時点で、以下のように骨子をまとめることができました。



Why

(なぜこのワークショップをする必要があるのか?)

⇒他者との違いを肯定的に受け入れず、誰もが安心して過ごせるクラスができていない現状があるから。

What

(このワークを通じて児童生徒に何を気づかせたいのか?)

⇒多様であることが当たり前であることに気づき、積極的に他者のことを考えるようなきっかけにしたい。

第5回目：9月4日(土)

● ワークショップづくり

全員で決めたワークショップの骨子に基づき、全員がワークショップのアイデアを持ち寄りました。7名で10個ほどのアイデアを実際に体験しながら試行錯誤しました。複数のアイデアを統合して、いくつかの案にまとめることができました。



第6回目：9月18日(土)

● ワークショップづくり

前回の案を基に、さらに全員が持ち寄ったアイデアを共有しながらワークショップをひとつの形にしてみました。ピクトグラムと絵を用いたワークショップを試験的にを行い、アドバイザーやスタッフからのフィードバックをもとに課題を洗い出し、ブラッシュアップを行いました。ワークショップの意図をどのような形で生徒に伝えるべきか、ルールをよりわかりやすくするべきではないか等、多くの意見やアドバイスが飛び交いました。



第7回目：10月2日(土)

● ワークショップ実演&フィードバック会

研修にご協力いただいた講師やフィールドワークの訪問先の方、過年度研修参加者等を招き、ワークショップを実演しました。良かった点、改善点をうかがい、更なるブラッシュアップをしていきます。今年東京オリンピックの開会式などで話題となったピクトグラムを使ったカードや、ワークショップのルールに関しては好評をいただくことができました。研修中や当日にご協力いただいた皆さまには本当に感謝の気持ちでいっぱいです！



第8回目：1月16日(日)

● ワークショップのブラッシュアップ

ここまで試行錯誤して作成してきたワークショップを最終形に仕上げました。研修で学んだこと、気づき、違和感などを、ワークを通じて体験し、「多文化共生」について考えるきっかけとなる2つのワークショップが完成しました。





2021年度教師国内研修参加者 [撮影：2021年教師国内研修事務局]

実践授業報告

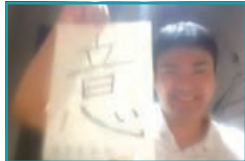
※この報告書に掲載されている写真は、教師国内研修参加者の責任の基に提供されたものを使用しています。
※参加者の先生、児童生徒さんの原文をいかして掲載しております。表記などにばらつきがありますが、ご了承ください。



Let's think about 『Diversity』!!

～世界と自分のつながりを感じてみよう～

【実践者】

	氏名	金城 裕哉	学校名	横浜国立高田東小学校
	担当教科等	外国語	対象学年(人数)	6年1組(26名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2021年12月～1月(6時間)		

【実践概要】

【1】実践教科・領域

外国語・総合的な学習の時間

【2】授業テーマ

〈授業テーマ〉「相互理解・共生」

〈関連する学習指導要領上の目標〉

○小学校学習指導要領 外国語 より

[目標(3)]

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

○小学校学習指導要領 総合的な学習の時間 より

[第1の目標(3)]

探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。
※探究的な学習は、「国際理解・多文化共生」を設定する。

【3】授業設定の理由・意義 (生徒観、教材観、指導観)

【授業設定の理由】

6年生 Unit 6 「Let's think about our food」では、食材を通じての世界のつながりを考える単元となっている。授業を設定するにあたっては、次のような単元構想を設定する。単に外国語に慣れ親しんだり、学んだりするだけに留まらず、人とのつながりの中で私達が他者に対して配慮すべき「文化」「事情」「価値観」を意図的に受け止められるような場面を発展的な学習として位置づけていきたい。子ども達が、「多文化共生とは？」という問いに対して、経験(疑似的であっても)を通して語る事ができ、具体的な行動を起こせる人になってほしい。

外国語
(4時間)

・AETの先生のためにオリジナルメニューを提案しよう。
⇒ AETの先生の母国の文化や価値観を大切にしながら、食材やメニューを考えたり、選んだりする。

探究的な学習
(2時間)

- ・ピクトグラムやバーンガを使って、異文化体験をしよう。
⇒ 疑似体験を通して、多様な考え方やマイノリティの気持ちに触れる。
- ・「たぶん、か」ワークショップ【みんなで遊びに行く場所を決めよう】に取り組もう。
⇒ 相手の背景にある様々な文化、事情、価値観の違いについて疑似体験を通して理解を深め、自分だったらどのような行動をとるのかを考えるきっかけにする。

【授業の意義】

外国語の背景にある様々な文化に限らず、様々な人々の背景にある「文化」・「事情」・「価値観」にも視野を広げて授業を展開することで、次のような子どもの姿が見られる、主体的・協働的な学びを目指していく。

- ・目の前にいる相手の背景(文化・事情・価値観)に対して理解を深める。
- ・他者へ配慮する姿勢を見せる。
- ・自分や相手の願いの実現に向けて、解決方法や手順を粘り強く考えぬいていく。

【児童／生徒観】

今回授業をするクラスの子どもたちは、学校生活の中で特に困り感をもたずに過ごしている様子が見えなくなる。自分自身で課題解決をして、よりよい人間関係を築いていこうとする子はいるが、多くの子は周りの雰囲気に合わせて、指示通りに行動したりして、主体的な姿を見せているとは言えない。ペアやグループでの話し合い活動や意見交換の場で、「自分の思いが伝わらない」、「相手が何を考えているのかわからない」という状況になったときに、果たして自分はどういう行動をおこせばいいのかを考え、行動として現れるようになってほしいというのが、担任と外国語専科としての共通の願いである。


【4】本時の展開

本時のねらい

『たぶん、か』ワークショップを通して、人と人との「違い」を自分事としてとらえ、お互いに自分と異なる意見や立場を大切にしようとする態度を養う。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
[導入] 3分	①前回の授業の振り返り 前回の授業で学んだことを紹介しながら、周りの人にちょっと言いにくい悩みを抱えていたり、今は大丈夫でも周りには言えない不安を抱えた経験がある人がクラスにもいるかもしれないと伝える。		
	あなたは、「他人事」を「自分事」として感じることはできますか。		
	本日のテーマが『見た目からは分からない悩みや不安を理解するために、どうしたらいいか考える』ことだと説明する。		

[展開1] 5分	②キャラクターカードの説明 カードの説明を聞き、一人一枚カードを引く。カードには、周りの人には言いにくいことが書かれていること、周りの人には見せないことを説明する。	・カードの内容は、他の人に見せないことを伝える。	・説明スライド ・キャラクターカード
[展開2] 15分	③ワークショップのルールの説明と行き先の相談 キャラクターカードと行き先シートを使って、行き先を相談する。(3分間) 目的 話し合い活動を通して、自分とは違う事情を抱えている人がいることを体験する	・話し合いが進まない場合には、絶対に行くことができない場所から決めてもよいと助言する。 ・行き先が決まらなくてもよいことを伝える。	・説明スライド ・行き先シート
グループ全員が無理せず、安心して行くことのできる場所を選ぶことができましたか。			
	④ひと言振り返り 自分の班の人が、どんな悩みや事情を抱えていたのかを振り返る。(2分間) 振り返りが終わったら、教員の指示でキャラクターカードを見せ合い、相手のカードを確認する。 ひと言振り返りが終わったら、感想を何人かに発言してもらい全体で共有する。 目的 話し合いのときに周りの人を思いやることや、相手の立場に立って相手の悩みや事情について考えることの難しさを確認する。		・説明スライド
[展開3] 12分	⑤もう一度、行き先を決めよう。 キャラクターカードを交換して、再度、行き先の相談を行う。(3分間) 目的 相手の立場に立って相手の悩みや事情について考えることの難しさを確認したうえで、再度、どうしたらそれを実践できるかを考える。 ⑥ひと言振り返り(2回目) 自分の班の人が、どんな悩みや事情を抱えていたのかを振り返る。(2分間)	・キャラクターカードは、隣のグループと交換する。	・説明スライド ・キャラクターカード 

	振り返りが終わったら、教員の指示でカードを見せ合い、相手のカードを確認する。 目的 1回目の気付きをもとに、自分が相手の立場に物事を考えることができたかを振り返る。	
[まとめ] 10分	「他人事」を「自分事」として感じるために、あなたはどんなことをしようと思いますか。 ⑦ワークシートの記入 ワークシートで本時の振り返りをする。ワークシートの1,2を記入後、ワークシートの内容をグループや全体で共有して、考えを深める。最後にワークシートの3を記入し、本単元のまとめにする。	・教員の指示で、記入する質問を限定してもよい。 ・ワークシート

【5】学校内で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・本実践を公開授業と位置づけ、より多くの先生方が参観できるようにした。
- ・これまでに体験した幾つかのワークショップを校内研修で取り上げ、ワークショップの目的や活用方法などを紹介していく。特に、若手の先生方が集まるメンター研修で行う予定である。

【自己評価】

【6】苦労した点

キャラクターカードの内容と組み合わせは、一番の悩みだった。カードを一読してイメージできるか、ワークショップ中演じることができるか、カードの組み合わせによって話し合いはどのように進むのか、など何度も試して、確かめながらの時間も必要だった。

【7】改善点

1回目でも2回目でも、ワークショップを終えての感想を交流する時間を設定してもよいが、行き先が決まらずモヤモヤとしているグループを敢えて取り上げて、全体の課題として一緒に考えていく時間も効果的だと思う。ワークショップ中、グループを観察しながらどのような言葉かけをしていくのか、本時のねらいとグループの実態に即しながら、ワークショップ後の展開を臨機応変に計画していく必要がある。

【8】成果が出た点

1回目と2回目で、ワークショップのルールを変えた。自分の真隣の人は親友で、キャラクターカードは見せてもよい、カードの線が引かれているところは話してもよいことにした。そうすることで、1回目よりも安心して相談ができたという実感、言いにくいことをようやく言えたという安堵感を味わった子が多かった。自分の内面を共有できる仲間がいることの安心感、自己開示ができることで周囲の共感を得やすくなることの疑似体験をねらったものである。

【9】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

それぞれの人、一人一人に違う「他人に耳かせない悩み」があり、その「悩み」に合わせた場所を選ぶというのが大事だと感じた。そうすることでみんなが不安ゼロで安心安全に楽しめると思う。今回のワークショップで人の悩みを第一に考えて話し合いみんなが納得できる、安全な場所選びに最善をつくした。自分も悩みに合わせた場所選びをみんながしてくれてうれしかった。

最初は意見が合わなくてしょうじき楽しくなかった（合わせないといけなくて、自分の言いたくないことを敬えあたりするときは、あ、こんな理由があるんだ！とかを知れた。
 ↓
 さいはは他人事という目を見ていたから、わりやり合わせようとしていたけど、自分事下あでか入ると他人事と自分事にしないとむずかしいな、と思った。

人それぞれ条件というものがあったから相手の事情を感じとるのが大変だった。けれど、事情がわかったことで「この人はこのような事情があるから次はきちんとわかってあげよう」という気持ちで最初に出た。

日常生活の中で相手の事情をわかってあげられずにここに行こうなどと気持ちをわかってあげられなかったことにこうがいらる。こんどからは自分の事情に合わせるだけでなく、相手の事情も分かち合うことで友達との関係が良くなり、世の中こういう考えが必要だということも心の中にしまっておきたい。

<p>室外は苦手</p> <p>紫外線アレルギー。 日焼けすると、肌が荒れるので、外で遊ぶことは制限されている。室内で過ごす<u>と安心する。</u></p>	<p>乗り物が苦手</p> <p>乗り物酔いをしやすい。 乗り物に乗ると、頭痛がするなど乗り物酔いしやすい。 <u>歩いて行ける場所に行きたい。</u></p>	<p>水が苦手</p> <p>水を見ると恐怖を感じる。 たくさんの水がある場所だと不安になる。<u>水に関係するような所は行きたくない。</u></p>
<p>おこづかい（自由に使えるお金）がない</p> <p>お金の使い方は、保護者に事前に相談するのが家のまわり。<u>お金をたくさん使う所へは行きたくない。</u></p>	<p>大きな音が苦手</p> <p>大きな音がイヤで、怖い。 大勢の声や大音量の音楽などが聞こえる場所だと、不安になる。<u>静かな所に行きたい。</u></p>	<p>動物が苦手</p> <p>動物アレルギー。 動物を見たり、近づいたりすると、くしゃみや鼻水が止まらなくなる。<u>動物がいない所に行きたい。</u></p>
<p>室内は苦手</p> <p>せまい所や暗い所が、怖い。 閉じ込められている感じがして、パニックになる。外のよう<u>に明るく、開放的な場所に行きたい。</u></p>	<p>運動が苦手</p> <p>泳げないことをバカにされたことがある。恥ずかしい。 <u>運動をしなくて済むような場所に行きたい。</u></p>	<p>人混みが苦手</p> <p>最近の感染症拡大が心配。飛沫や人の距離がとても気になるので、<u>人が少ない所に行きたい。</u></p>
<p>長時間歩くことが苦手</p> <p>貧血がみ。疲れやすい。 歩いたり運動したりすると、めまいで動けなくなる。<u>移動は、乗り物を使いたい。</u></p>	<p>静かにしていることが苦手</p> <p>シーンとなる状況がイヤ。 静か過ぎる所だと、落ち着かない。<u>気軽にいつでも、おしゃべりできる所がいい。</u></p>	<p>にぎやかは苦手</p> <p>ガヤガヤしている状況がイヤ。他人の話し声や笑い声が、自分に向けられているのでは、と気になってしまう。<u>静かな場所に行きたい。</u></p>



Let's think about 「Diversity」

「たぶん、か」ワークショップで、「多文化共生」を考えよう。

Class Name

あなたは、「他人事」を「自分事」として感じることはできますか？

1、「みんなで遊びに行く場所を決めよう」ワークショップ
ワークショップをやってみてどうでしたか。

2、今日の授業の振り返り
「他人事」を「自分事」として感じるために、あなたはどんなことをしようと思いますか。



ゆいまーる

～相互理解・寛容～

【実践者】

	氏名	三枝 涼輔	学校名	横浜市立梅林小学校
	担当教科等	全教科	対象学年(人数)	個別支援学級(10名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2021年12月2日(1時間)		

【実践概要】

【1】実践教科・領域

道徳

【2】授業テーマ

〈授業テーマ〉「自分と違う意見も大切にしようとすることで、人と人が理解し合う」

相手の意見に耳を傾け、自分と違う意見も大切にしようとする心情を育てる。

〈関連する学習指導要領上の目標〉「相互理解、寛容 B-(11)」

内容項目 中B-(11)は「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」

【3】授業設定の理由・意義 (生徒観、教材観、指導観)

【授業設定の理由】

本学級の児童は、1年生から6年生まで合わせて19名在籍しており、学年問わず児童同士が関わり合うことで、お互いを尊重し合っていこうとする気持ちが少しずつ見られるようになってきた。また、こだわりがあったり、好きなことがはっきりしていたりするので、自分の考えや意見を持っている児童が多い。しかし、自分の思いが最優先になってしまい、相手の意見を理解しようとしなかったり、自分の考えを押し付けてしまったりする様子も見られた。

【授業の意義】

本時では、WSを通して活発な意見交換の場を作り、それぞれの意見を主張できるようにする。また、意見の衝突を狙うのではなく、様々な考え方、意見があることを感じさせたい。そして、様々な考え方があって当たり前、自分と異なる意見も大切にしようとする心情を育てる指導を心がける。

【児童／生徒観】

自分の考えや意見を友達に伝えることができる。しかし、友達の意見を受け入れられず、否定してしまったり、自分の考えやルールを友達に押し付けてしまったりすることがある。

【4】本時の展開

本時のねらい 相手の意見に耳を傾け、自分と違う意見も大切にしようとする心情を育てる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
[導入] 7分	ドブルを行う。 自分のカードと友達のカード、どちらにもあるイラストを見つけてみよう。 ①好きな食べ物 ②好きなアニメ ③好きな教科 <input type="text" value="グループにしてみてください。"/>	勝負を意識させるのではなく、お互いが自分の思いを伝え合えるようにする。	ドブルカード
[展開] 20分	アニマルカードをグループにする。 終了後、友達とグループを見せ合う。 <input type="text" value="自分の作ったグループと友だちの作ったグループ、比べてみてどうかな?"/> <input type="text" value="正しいのはどれだろう?"/> <input type="text" value="自分とちがう考えを聞いてみて、どうだったかな?"/>	「グループに分ける」とは表現しないようにする。 1人1部ずつ、アニマルカードを配る。	アニマルカード
[まとめ] 10分	2グループに分かれ、各グループに教員が入り、振り返る。 出た意見を画用紙にまとめ、共有する。		
3分	音楽鑑賞『U&I』		音源

【5】学校内で国際理解教育・授業実践を広める取組

校内の教員を対象に授業を公開した。また、授業後に振り返りの時間を設け、若手教員を中心に意見を交わした。また、自分の教室や廊下に、国際理解教育に繋がる絵本や資料などを掲示している。

【 自己評価 】

【6】苦勞した点

まず初めに、どの教科で実施すべきか悩んだ。学級活動や総合的な学習の時間での実施がしやすいと思ったが、評価のことを考え、特別の教科道徳で実施した。WS 中は教師ではなく、ファシリテーターとなるよう努めた。

【7】改善点

一般級での実施を想定すると準備物も増えるので、構成を見直す必要がある。
また、アニマルカードの選定の際には、児童が一目で何の生き物かわかるものを選ぶ支援が求められる。

【8】成果が出た点

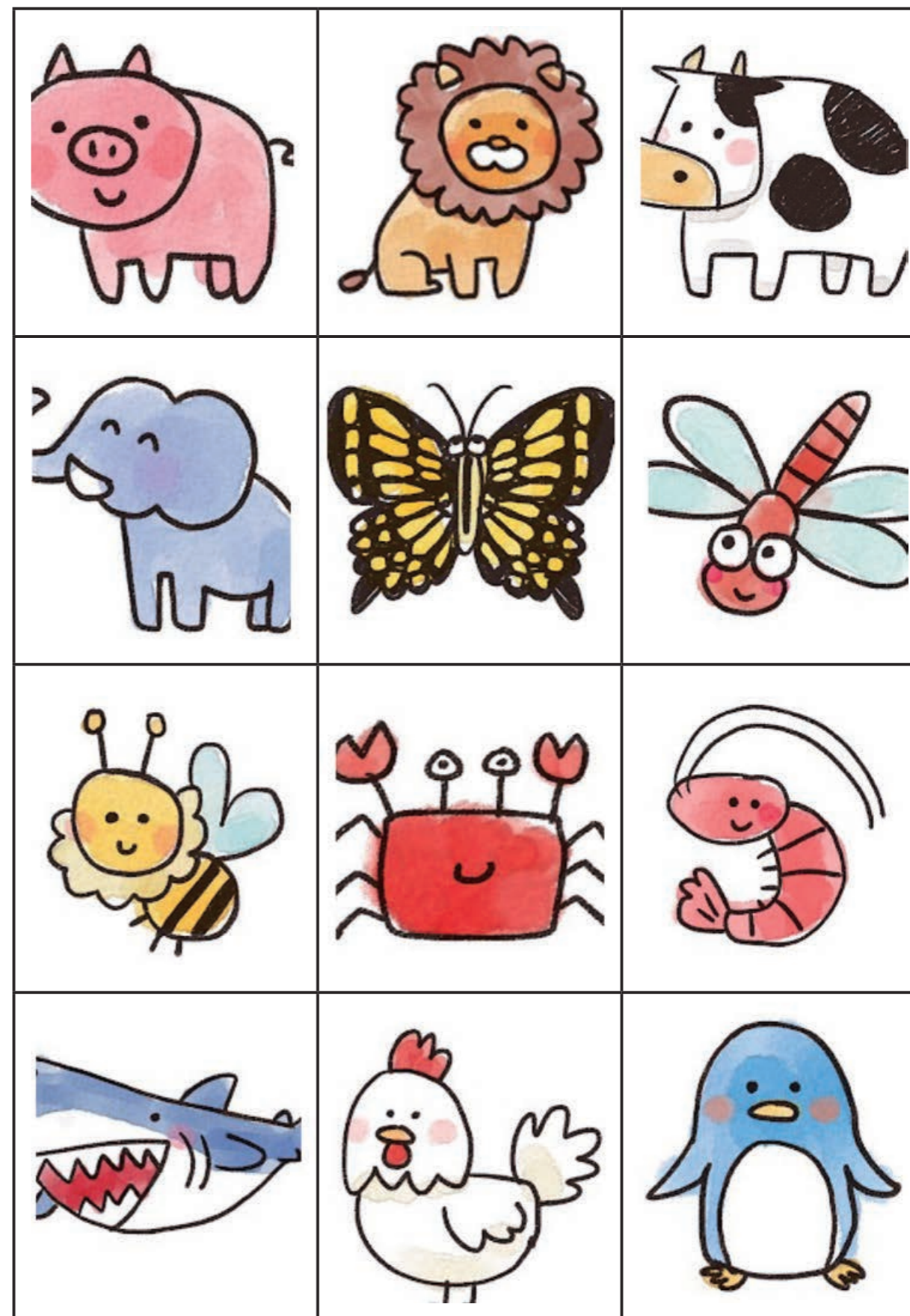
個別支援学級ということもあり、教科書やプリントを用いた授業が苦手な児童もいるので、今回の実践を通して、WS を取り入れた授業の有効性を感じた。また、児童が終始楽しそうに活動していたことが印象に残っており、楽しい活動だったからこそ、真剣に話し合うことができたのだと思う。

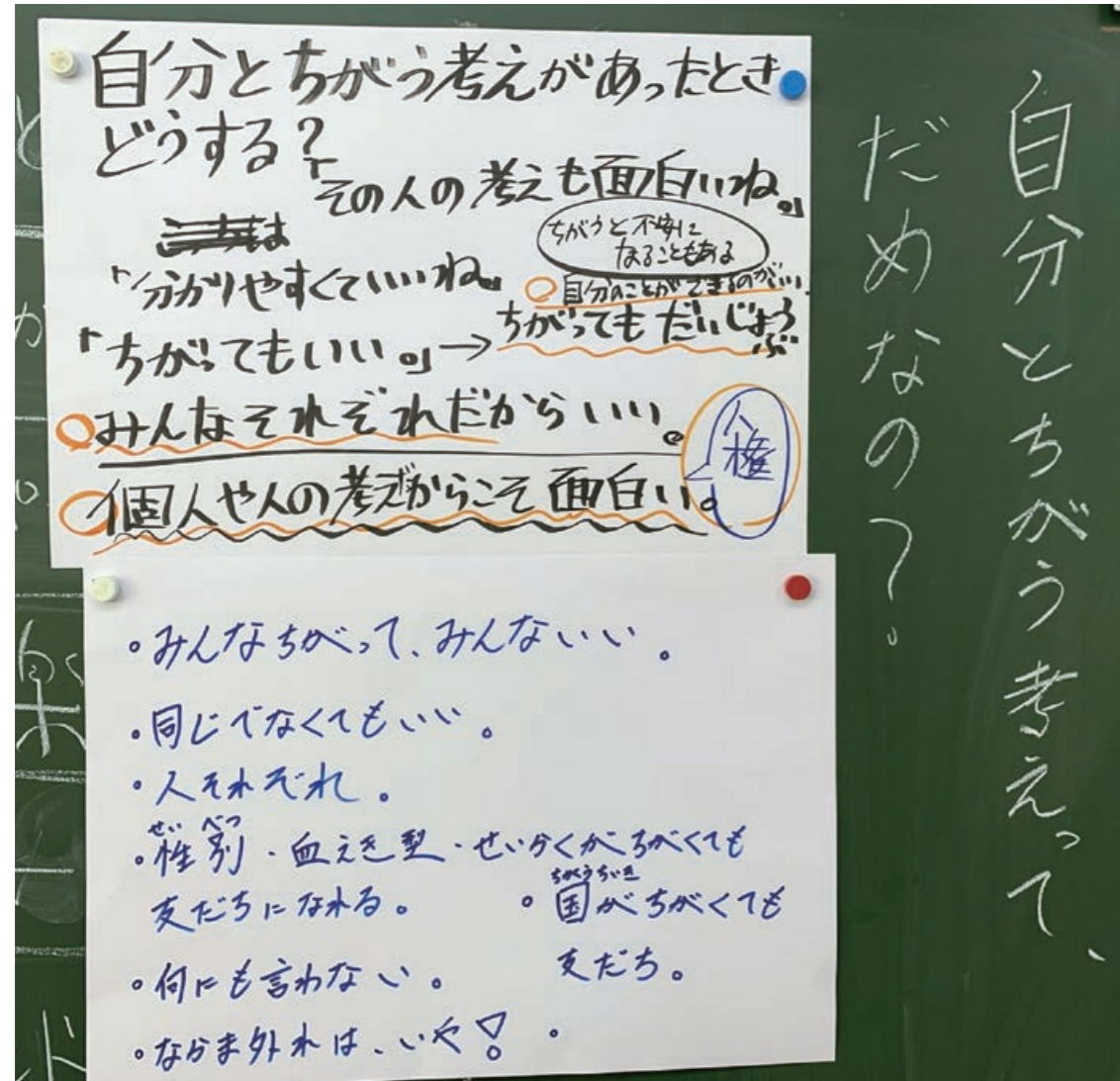
【9】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

児童の意見には、「みんなちがってみんないい。」「人それぞれだから、同じでなくてもいい。」「性別、国籍が違っても、親友になれる。」「違いがあるから面白い。」などがあった。

アニマルカード

出典：「ゆるかわいい無料イラスト素材集」<http://www.irasuton.com/?m=1>





自分とちがう考えって、
だめなの？

日系人・日本人移住者から学んだこと

鳥原大嗣

周りの人と違うことで、不安な気持ちを抱いた経験のある人は多いと思います。そして、日系人や日本人移住者の方々は、慣れない環境の中で私たちよりもっと大きな不安を抱えていたと思います。そんな中でも力強く生きていくことができたのはお互いを支えあう気持ちがあったからだ学びました。

森 倫範

県内のフィールドワークを通じて、日系人・移住者の皆さんから学んだことは「相手を想う優しさ」でした。多文化共生を肌で感じている皆さんは、国内外やご自身のルーツに関わらず、相手を想う優しさで行動されていました。その体験を通じて、優しさの実践の重要性を改めて学びました。

金城裕哉

私の親戚は、戦前ポリビアに移住しました。直接話を聞くことはできませんでした。しかし、JICA資料館で親戚の歩んだ道程を垣間見ることはできたと思います。自分のアイデンティティーをも揺るがす壮絶な体験を経た方々の証言には、仲間を信頼し、つながりを大切にして、共に生き抜いていこう、という強いメッセージを感じました。

渡辺 香

日系人や日本人移住者の歴史に触れたり、実際のお話を聞いたりして、自分がいかに無知であるかを思い知りました。日系人や日本人移住者に関わらず、海外にルーツがある人の困り感にいち早く気づき、自分にできることを考えて行動していきたいと思いました。

三枝涼輔

ブラジルで暮らす日系人、日本人移住者の方と話す機会がありました。当人の苦悩やリアルな声を聴くことができ、差別や嫌がらせが今でもあることを知りました。日本人でもなく、ブラジル人でもなく、日系人としてのアイデンティティについて考えさせられました。

小島寛子

困難な状況中でもがきながらも、助け合いながら日本で生きていくという選択をしているたくさんの移住者がいるということ。そしてその方たちと共に街を作ろうとしている日本人がいるということ。私たちにもできること、やるべきことがあると確信できたこと。

菊池史織

JICA横浜にある資料館を見学し、多くの日本人が戦争や生活苦が理由で海外へ移住し、現地で過酷な生活を送っていたことを知りました。工夫しながら現地の文化・生活にそれらを融合させて生きていた様子は、昨今のリタイアした後に海外に移住する人々の思いとは大きくかけ離れていて印象深かったです。





たぶん、か ～相互理解・寛容～

【実践者】

	氏名	渡辺 香	学校名	横浜市立長津田小学校
	担当教科等	6年英語／書写	対象学年(人数)	6年2組(32名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2021年11月29日(1時間)		

【実践概要】

【1】実践教科・領域

道徳

【2】授業テーマ

〈授業テーマ〉「相互理解、寛容」

〈関連する学習指導要領上の目標〉 道徳における指導内容の明確化

学年	問題意識を高める指導内容 (指導の着眼点と指導場面例)	基本的指導内容		実践に生かす 指導内容
		内容項目	学年別視点	
6年	・相手の意見を聞き、異なった意見や立場を尊重することの大切さを理解する。	B-(相互理解、寛容) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	○自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする。	・自分と異なる意見や立場、相手の内面について考えさせ、お互いに自分と異なる意見や立場を大切にしようとする態度を養っていく。

【3】授業設定の理由・意義 (生徒観、教材観、指導観)

【授業設定の理由】

本時で扱う内容項目は、高学年 B-(相互理解、寛容)「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」である。広がりや深まりのある人間関係を築くために、まずは相手の意見を聞き、なぜそのような意見や立場をとるのか相手の立場に立って考えることが大切である。また、自分の考えや意見を相手にきちんと伝えることも重要になってくる。子どもたちは、2週間後の修学旅行に向けて、これまで関わりの少なかった友達とも関わる場面が増えており、人間関係がより広がったり深まったりする大きな行事を控えている時期である。

そこで、自分と異なる意見や立場をより自分事として考え、お互いに自分と異なる意見や立場を大切にしようとする態度を養っていきたいと考え、本主題を決定した。

【授業の意義】

ロールプレイングを用いて自分とは違う立場の人になりきることで、相手の気持ちを考えたり、予想したりしながら他者への理解を深めることができる。また、内面カードにはあえて何かしらの困り感を抱えている条件を設定しているため、マイノリティや弱い立場の存在を知ることができる。それを知った上で、話し合いのワークを行うため、自分がどうするか、またお互いにどうすればいいかを考えることで「相互理解、寛容」という本時のテーマに迫ることができると思う。

【児童／生徒観】

本学級の児童は、明るく活発な児童が多い。授業内での話し合いの場面では、時間をかけてでも多数決ではなく、全員での議論を重ねることで全員が納得する決め方を選ぶことが多い。クラス全体の雰囲気として、一人一人の意見を大切にしようとする意識が根付いてきている。

一方で、自分の考えに固執してしまい、相手の意見に耳を傾けたり、受け入れたりすることが難しい児童もいる。また、困っている人がいても、そもそもそのことに気付かなかったり、気付けたとしても、そのために自分から相手のために自ら積極的に関わろうとしたりする姿は少ない。教師がいない場面では、その傾向は強くなりやすい。それは、自分のことばかりに夢中で、周りのことを考える余裕がないことや、自分自身が困った経験が少なく、困っている人の気持ちを想像する力が乏しいことが考えられる。そのために相手のために自分ができることはないかと考えることも難しくなっているのではないかと考えられる。

そこで、本時では、人と人との「違い」を相手の立場に立って考えながら話し合うワークショップを通して、お互いに自分と異なる意見や立場を大切にしようとする態度を養いたい。

【4】本時の展開

本時のねらい 人と人との「違い」を自分事として捉え、お互いに自分と異なる意見や立場を大切にしようとする態度を養う。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
[導入] 5分	①ピクトグラムを見て、どんな人が考える。 目的 外見だけでは、人の内面までは理解できないことを知る。	・一人一人が自由にこんな人ではないかをイメージし、自由に発言させる。	・テレビでピクトグラムを映す
[展開] 15分	②ワークショップ「たぶん、か」のルールを説明する。 ③ 1回目のワークショップを行う。「休日にグループ全員で遊びに行きたい場所を1つ」決める話し合いをする。	・内面カードは他の人に見せない ・カードの内容が難しい場合には1回のみ交換することができることを伝える。	・ルールや指示は、テレビで映す ・場所カード ・内面カード

<p>[まとめ] 25分</p>	<p>相手のことをどんな人だと思いましたか。</p> <p>④お互いの内面カードの内容を予想し、伝え合う。</p> <p>⑤お互いの内面カードを見せ合う。</p> <p>グループ全員が無理せず、安心して行くことができる場所を選ぶことができましたか。</p> <p>⑥本時のめあてを知る。</p> <p>「自分と異なる意見や立場の人とお互いに楽しく活動するには・・・？」</p> <p>※内面カードを交換し、同じ手順で3回目のワークショップを行う。</p> <p>目 的 1回目のワークショップを経験した上で、めあてを設定することで、当事者意識をもたせる。</p> <p>⑦個人の振り返りをする。 ロイロノートのアンケート機能を使い、振り返りを行う。</p> <p>⑧振り返りを共有する。</p>	<p>・ここで始めて他の人に内面カードを見せる</p> <p>・ロイロノートで集計されたアンケートを適宜読み上げ、全体に共有する</p>	<p>・児童用タブレット</p>
----------------------	--	--	------------------

【5】学校内で国際理解教育・授業実践を広める取組

本時のワークショップについて、学年、B研、メンター研等で積極的に実践報告を行っていききたい。また、国際福祉委員会での子どもたちの活動の助言にも活かしていきたい。

【 自 己 評 価 】

【6】苦勞した点

まず、内面カードの内容を選ぶことに難しさを感じた。カードの内容には、より子どもたちにとって、身近な内容を選定した。ただ、デリケートな内容も含まれているため、万が一にも内面カードで辛い思いをするような子が一人でも出ないように、研修メンバーはもちろん当該学年の先生にも事前に内容について相談や確認をとった。

次に、問いについては最後まで苦悩した。どんな言葉で問いかけるのか、言葉選びやタイミングについては当日の子どもたちの様子から微調整が必要になってくる。

【7】改善点

内面カードについては、各学校やクラスの子どもたちの実態に合わせて微調整が必要になってくる。また、話し合いの途中で対立が起こるように意図的に対立する内容のカードを組わせておく必要がある。対立が起こることでこのワークショップのねらいにより迫ることができる。

ワークショップが予想以上にスムーズに進み、振り返りの時間を多く確保することができた。個人の振り返りをじっくりとることができたものの、全体の共有をしっかりとすることができなかった。ロイロで集計したグラフのデータを子どもたちに見せたり、教師が子どもたちの振り返りを読み上げたり、全体に共有する場面を設定すると学びはさらに深まると思った。

【8】成果が出た点

場所カードや内面カードなど、カード形式にしたことで、子どもたちはゲーム感覚で楽しくワークショップに取り組むことができた。

ロールプレイングを用いたことで、子どもたちは、自分と異なる立場の人について考えることができたという振り返りが多く見られた。また、立場が違えば意見が違うことは当然だということもロールプレイングをしながら学んでいた様子が伺えた。さらに自分の意見や内面のことを伝えるには、自分から言葉を発して相手に伝える努力をする必要があるという気づきも得ることができていた。

【9】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

〈以下、子どもの振り返りより原文〉

「思いやりが大切。相手の気持ちを考える。」「相手の苦手なものを知っていくこと。相手が無理していないか、気にかけること。」「自分がその人の立場になって、人のことをよく考えることが大切だと思った。」「相手に合わせつつも、自分の意見をしっかり言うこと。」「その人が自分のこと（自分が苦手なこと、もの、嫌いなこと、もの）を言いやすい環境を作ることが大事だと思った。」「話し合う力、理解しようとする努力が必要だと思います。」「世の中にはこういう人がいると思いがらこの先、人と楽しく関わっていききたい。」「心を開く。」



たぶん、か ～多文化共生～

【実践者】

	氏名	菊池 史織	学校名	学校法人公文学園 公文国際学園中等部・高等部
	担当教科等	英語科	対象学年(人数)	中等部2年D組(45名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2021年12月17日(1時間)		

【実践概要】

【1】実践教科・領域

道徳

【2】授業テーマ

〈授業テーマ〉「多文化共生」

〈関連する学習指導要領上の目標〉 学習指導要領 中学校 第1章総則 第1-2より

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。道徳教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意しなければならない。

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

上記を踏まえ、本時は自分とは異なる生活環境や状況を知ること、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展を促すきっかけとする。「多文化共生」を知識として理解するのではなく、自身のこと以外に対して、自分のこととして捉え、考えることができる姿勢をみにつけるための学習とする。他者と共によりよく生きるために、自発的に自らを振り返り成長を実感したり、これからの学級や学校での生活において課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫する。

【3】授業設定の理由・意義 (生徒観、教材観、指導観)

【授業設定の理由】

他者が置かれている自分とは異なる環境や状況に理解を深め、相手の気持ちや考えを想像する姿勢を育む。周りのことを「じぶんごと」として捉え、配慮した思考や行動を自発的に身に付け、自分だけではなく他者もよりよい学校生活を送ることができるよう努めるきっかけとしたい。

【授業の意義】

自分ではない誰かの立場に立って考えることで、他者への理解が深まる。生徒と教師が共に考え、共に語り合うことで、教師が一方的に道徳的視点や特定の価値観を示し、押し付けるのではなく、生徒自らの気付きにより、自発的に、主体的に取り組むことができる。生徒同士が対話を重ねることで、より関係性が深まり相互理解を行いやすい雰囲気を作ることができる。

【児童／生徒観】

宿泊行事を経て、目標に対して男女隔てなく意見を出し合い、協力して行動することができるようになった。リーダーシップを発揮して、周囲を気遣い行動できる生徒もいる。クラス全体の雰囲気として、発言が不得手な生徒に対して、配慮した働きかけができるようになってきた。発言が不得手な生徒が、自発的により積極的に思いや考えを伝えることができるようになることが今後の課題である。

また、経済的に恵まれた生育環境であることに無自覚で、他者が困っていることに気付けない生徒が多い。ロールプレイにより疑似体験をすることで、他者への理解を深め、思いやりと感謝の気持ちを大切にすることをきっかけとしたい。

部活動でキャプテンをしている。しかし、本当は皆の前に立ち、まとめることが苦手でストレスに感じている。 △人前△まとめ役	5人兄弟姉妹、両親、祖父母の大家族。静かな場所が苦手。祖父母の介護をしなくてはならないときがある。 △介護	母親と二人暮らし。食事作りを担当している。五時までしか遊べない。人と話すことが苦手。 ×夜間外出△金銭	小学校では不登校だった。友達はいるが、本音は言えず、常にみんなに合わせる。室内で静かに過ごしたい。 △会話
重度アレルギー(動物、食べ物、ハウスダスト、薬剤)があり、親も過度に心配するので外出には消極的。 ×アレルギー	父：中国/母：中国。名前からも中国ルーツとわかる。日本語運用能力に問題なし。お小遣いが限られている。 ×金銭	勉強が苦手。放課後も塾に行っていて、平日は遊べない。結果が出てなくて、自分に自信が持てない。 ×勉強	運動は苦手。スマホ依存がひどく、使用は1日1時間と制限されている。ゲームができないとイライラする。 △運動
父子家庭。父親がとても厳しく、男性に恐怖心を感じる。成績優秀。家事をしなくてはならないので門限5時。 ×門限5時	母子家庭。家計が厳しい。進学は国公立のみ可能。食事、衣服、雑貨、友人付き合いが苦勞している。 △金銭	はっきりとした夢があり、そのための習い事で毎日忙しい。頑張れば何でも叶うと信じている。人と話すことが大好き。	新しい場所、人、ことが苦手。情報は聞くよりも、見て理解する。こだわりが強く、気になると周りが見えなくなる。
難病あり。日常生活に問題はない。長時間の歩行・運動は困難。緊急時に備え、病院の所在確認は必須。 ×運動	海外生活から帰国して日が浅い。英語が母語、日本語は不得意。日本の文化や習慣がわからない。 △日本語	スポーツが大好きで、平日放課後、土日も練習がある。土日午後ならば遊ぶことができる。室内で過ごすことは苦手。	動物が大好き。相手の態度や言葉に敏感で反応できる。自宅はベット不可なので土日は触れ合いにでかけることが多い。

※生徒間を意識して作成した内面カード(一部抜粋)

【4】本時の展開

本時のねらい 外見(見た目)のとらえ方は人により変わり得ることを知り、多様な捉え方を受け入れることができる。外見(見た目)からは判断できない、内面(置かれている状況や、抱えていること)に配慮する姿勢を持ち、自分のこととして捉えることができるようになる。相互理解のために、言いづらいいけれどもわかって欲しいことを、自発的に相手に伝えようと思い、行動に移すことができるよう努める。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
[導入] 5分	①本時の流れとねらいを説明 問：多文化共生と聞いて、イメージすることは何ですか？		・机は4つずつとする
5分	グループ、なかま、チームという言葉の定義や、宿泊行事で得た全体のふりかえりを元に相手を理解することについてイメージを共有する。 ②ピクトで自己紹介 外見カード(ピクトグラム)を使って、自己アピールをする。 外見カード(ピクトグラム)を使って、他己アピールをする。 目的 外見から受けるイメージの相違について知る。	・「多文化共生」についてのイメージをグループ(5、6名×8グループ)内で共有する。 ・外見から受けるイメージを互いに共有する。 ・困難な場合は交換しても良い。	・外見カード
5分	③ピクトで多文化 全体に向けて、ピクトのとらえ方の違いを示す。		・ピクトグラムのスライド
[展開] 5分	④内面カード 問：内面カードの人物の生活、状況、性格、かかえていることを想像してみましょう。どんな毎日をどんな思いで送っているのでしょうか。	・内面カードは周りの人には見せない。 ・困難な場合は交換しても良い。	・内面カード
5分	⑤行先を決める 週末にグループのみんなで遊びに行く場所を決める。	・2分間の制限時間を事前に伝える。	・行先カード ・タイマー

5分	⑥それぞれの内面カードを予想する。 リーダーから時計回りの順番で、自分の内面カードにはどんなことが書かれていると思うか聞く。 ⑦それぞれの内面カードを開示する。 リーダーから時計回りの順番で、自分の内面カードを見せる。		
5分	問：相手がどのような状況にいるか、思いやることはできましたか？ どのようなことに困っていると思いましたか？ どのように判断しましたか？ ※内面カードを交換して、同じことをもう一度行う。		
5分	問：1回目と2回目で、行先を決める際に工夫した点がありましたか？ その結果、活動に違いはありましたか？ ⑧ふりかえり 内面カードを用いた6、7の活動についてふりかえり、グループで共有する。 ※時間に余裕があれば、自分たちが本当に行きたい・行くことができる場所について話し合う。	・時間指定はするが、共有の方法については班ごとの判断に委ねる。	・ワークシート
10分	⑨内面カードの作成 自分や自分の周りにある「外見からはわからない『わかってほしい』こと」について考え、シートに記す。		・ワークシート
[まとめ] 10分	グループで共有する。 問：多文化共生と聞いて、イメージすることは何ですか？ ⑩ふりかえり 今日の活動について、クラス全体でふりかえり、共有する。		・ワークシート

【5】学校内で国際理解教育・授業実践を広める取組

本時の活動を踏まえ、学年はもちろんのこと、機会があれば積極的に学内でも実践結果を共有する。本時の活動、反省を JICA 横浜の研修で報告し、更なる改良に役立てる。

【 自己評価 】

【6】苦勞した点

活動の初めにアイスブレイクとしてダブルを導入するか否かは、教室に生徒たちが集まってきた様子で判断した。結果として、ダブルを導入することでふりかえりの時間を十分にとることができなかった。

授業内に感じたことや考えたことを、生徒たち自身の言葉のまま共有することができる自身のファシリテーション力に課題を感じた。

【7】改善点

翌週22日水曜日6校時目の30分のLHRの時間を用いて、本時のふりかえりとふりかえりの共有を行った。

ワークショップを行ってすぐの新鮮な意見ではないが、全体で意見を引き出しながらふりかえりを進めたことで、「多文化共生」へのそれぞれの学びにはつながったように感じる。

【8】成果が出た点

他者への配慮だけではなく、具体的な声かけや働きかけにも繋がった。また、相互理解には自発的に自らを理解してもらおうと働きかけることも重要だということがわかり、自分のことを相手に伝えようとする意識、姿勢が育った。

【9】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

問：多文化共生と聞いてイメージすること

※本校には「異質の他者を認める」という考えが学園全体に根付いており、多文化共生という考え方にはワークショップ実施以前から理解があったように感じた。

- ・異なる文化ではその人々の思想も異なる。しかしその思想の違いを受け入れ、共に生きること。
- ・多くの文化が共生している。アメリカとか。インターとか。
- ・異質の他者を認めること

問：ピクトグラムのとらえ方について感じたこと、思ったこと、気付いたこと

- ・人それぞれいろんな考え方があり
- ・自分と他人の主観や考え方は違うのだということを改めて実感した。
- ・だいたい同じだったけれど、自分と違うものもあった。なるほどなと思った。
- ・自分と違う人になりきるの難しかった。

問：行き先をきめるとき、感じたこと、思ったこと、気付いたこと

- ・どうやったら自分の意見をうまく伝えられるかすごく考えた。
- ・早めに自分の状況を伝えればもっと早く決まった気がする。
- ・今の生活が恵まれていると思う。

問：本日の活動を通して感じたこと、それを受けてどのような自分になりたいか、考えてみよう。

- ・それぞれに様々な事情があるという設定で活動をして、その事情に全然気付かず、話し合いがスムーズに進まなかったので他人の抱えている事情などを理解できるようになる。
- ・何となく相手の置かれている立場を察し、気付けないように会話することの難しさ、大切さを知った。どんな人とも友達になれる人が必ず持っている能力だと思った。
- ・一人一人思っていることや育った環境がちがうのに自分や他人を比べるのはよくないと思った。相手のことを考えてみんなが楽しめるようにできる人。
- ・自分は思っていたより、行動や食に制限がなく、本当は沢山の人が何か制限や自分の性格によってあれができないとかがある人がいると思った。自分を基準と考えずに、自分が大好きだけれど、それを大嫌いな人もいることをわかってほしい。
- ・皆のできない事や苦手を察したり逆に自分がどうしても無理なことはきちんとと言える人になりたい。
- ・やっぱり私は自分から話に行くのが苦手だなとすごく思いました。なので、少しずつ自分から話せるようになれるようにしたいと思いました。班の人と話をしているのがすごく楽しかったです。
- ・2つ目にやった内面カードのやつを通して人には言いたいけど隠していることがあってそれをなかなか言う勇気がないことがあるからそういうのをわかって、それを分かった上で、その人に接したいと思う。
- ・何が悪いのか悪いのかははっきり言ったらわかりやすかった。意見をはっきり言えるようになりたい。
- ・前よりもっと気軽に自分の意見を言えるようになった。本日の活動を通して、意外と自分のことを話しても大丈夫な空気だったので、今後もっと自分の言いたい内面を友達などに言おうと思った。
- ・相手のことを分かってもらう姿勢も大事だけど、それでもどうしてもわからない事もある。だから、伝えるように努力するのがすごく大切で周りへの声掛けや配慮もとても大切。
- ・自分は積極的に発言することが苦手だから今度からもっと伝えたいことをしっかり言葉にできるようにしたい。

問：ワークショップ「たぶん、か」の感想を聞かせて下さい

- ・「多文化共生」という言葉へのイメージがワークショップの前と後で変わった。ゲームのような形式だったのでやりやすかった。
- ・国や宗教単位じゃなくて、一人一人の多文化を認めることが大切だと思いました。私は自分とまったく違ったり価値観が全く違って100%認めることができるかって言われたらどうなのかなって思ったので、相手の意見を聞いて立場とか気持ちを共有できる人になりたいと思いました。
- ・相手の悩みは、相手が自ら言えるものと言えないものがあると感じました。だから、相手の性格を見極めたりし、相手が相談しやすい環境を作ることが大切だと思いました。自分の立場に置き換えても、相手のことをすべて理解できないけど、少しでも楽だと思えるようにしてあげたいと思いました。
- ・とても楽しかったです。このワークショップを通して、より相手のことを知ろうと思う気持ちが強くなりました。自分のことについて理解して欲しいことがあったらみんなにちゃんと教えようと思いました。色んな状況下に置かれている人たちがいることを知り、偏見を少しでも無くせたらいいなと思いました。



教室内の行き来やグループ活動時の机・イス移動の
利便性を考えて、講義室を使用しました。



ダブルカードは、作成時間の短縮の為、四角のまま
使用しました。印刷し、裁断機を使用し、時間短縮。



ピクトグラムになりきって一言アピール
は、想像以上に盛り上がりました。



内面カードを見たときに「こういうの
マジ無理」「こういう人いる」「自分と
似てるかも」色々な反応がありました。



行き先を決める時のカードの使い方も班それぞれ。
カードの人物のことを考え、相手のことを考え、ど
の班も活発に意見を交わしていました。



実生活であれば、「これはみんなに言えると思う」や
「自分はなんて恵まれているんだろう」など、活動通
じて色々な思いを抱いたようです。

本研修参加前と後のご自身の変化



菊池 史織

手 ームのパフォーマンス向上には個々が自身を理解し、適材
適所で努力することが大切ですが、自身を客観的に捉え分
析することは簡単なことではありません。以前は、批判は受け入
れ難いものがありましたが、信頼できる仲間だからこそ、指摘の
声にも素直に耳を傾け、変わろうと努力するようになりました。

多

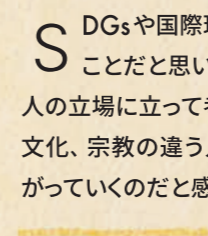
文化共生を「みんな違ってみんないい」という感覚で捉え
ていたことが浅はかでした。現代社会は、「違う」ことをそ
う簡単には受け容れてくれないのだ、と研修を通して強く感じま
した。ならば、この研修メンバーと力を合わせてこの難題に挑
戦していこう、という明確な目標を定めることができました。

金城 裕哉



小島 寛子

学 びたい、成長したいという気持ちを持ってこの研修に参加
しましたが、志の高い楽しい仲間刺激を受け、その気持
ちがもっと大きくなりました。特に外国につながる生徒たちのた
めに何ができるのか、そのために何を学ばよいかをより考え
るようになりました。



鳥原 大嗣

S DGsや国際理解について学ぶことは、もちろん有意義な
ことだと思います。しかし、まずは自分の身の周りにいる
人の立場に立って考え、その人たちを大切にすることが国籍や
文化、宗教の違う人々を大切にすることを育むことにもつな
がっていくのだと感じました。

鳥原 大嗣



三枝 涼輔

自 分では気付いていなかった自分自身の強みを見つけても
らえました。参加前と比べると、少しだけ自信をもてた気
がします。また、毎回自分自身が参加者としてWSを経験し、
ファシリテーターの様子を見ることができたので、ファシリテ
ーターとしての役割や関わり方、声かけを学ぶことができました。

研

修を通じて、「相手の気づきを待つ」ことをこれまで以上
に意識するようになりました。以前は学生の気づきを奪
い、気づく前に答えを提示していました。今は専門的な内容の
授業でも学生本人の気づきを促すよう道標を示しつつ、本人
の力で気づける授業を意識できるようになりました。

森 倫 範




渡辺 香

以 前よりも「困っていることはないかな?」「私にできることは
ないかな?」という視点を持ち、人と関わるが増えたと思
います。この研修を通じて、難しく考えず、大人も子どもも余
裕のある人ができる範囲で無理なくできることを積み重ねてい
くことが社会をよりよい方向へ導いていくと実感しました。



たぶん、か ～相互理解・寛容～

【実践者】

	氏名	鳥原 大嗣	学校名	横浜市立東野中学校
	担当教科等	数学	対象学年(人数)	2年1組(33名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2021年12月(2時間)		

【実践概要】

【1】実践教科・領域

道徳

【2】授業テーマ

〈授業テーマ〉「相互理解、寛容」

〈関連する学習指導要領上の目標〉

学習指導要領 中学校 第1章総則 第1-2より

道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。学校における道徳教育は、特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

学習指導要領 中学校 第3章特別の教科道徳より

第1 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

第2 内容

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である道徳科においては、以下に示す項目について扱う。

B 主として人との関わりに関すること

[相互理解、寛容]

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めて

いくこと。

【3】授業設定の理由・意義 (生徒観、教材観、指導観)

【授業設定の理由】

残り3ヵ月という限られた時間の中で、誰もが別れを惜しむクラスを創り上げるためにも、相手の気持ちや考えについて思いを巡らせて理解しようという姿勢が必要である。特に学級には、表面上は何事もないようでも、よく聴いてみると悩みや不安を抱えている生徒も多い。そこで、生徒一人ひとりに、級友の見た目からは分からない悩みや不安を自分事として捉え、理解しようとする姿勢を育てたいと思い授業を設定した。

【授業の意義】

ワークショップを通して、自分ではない誰かの立場を体験することによって、自分の身近にいる人も目には見えない不安や悩みを抱えているかもしれないという気づきが生まれる。また、授業を通して、自分の身の周りにいる人がどんなことで悩んでいるか考えることで、日常生活の中で接する仲間を思いやる一つのきっかけとなる。

【児童／生徒観】

合唱コンクールを通して、お互いに声をかけあって自主的に協力して行動しようという姿勢が見られる生徒が増えてきた。協力して物事に取り組むことで、達成感や充実感を味わうことができると理解している生徒は多い。しかし、まだまだ客観的に物事を捉えることができる生徒は少なく、日々の生活や行事に向けた取り組みでは、自分の行動が周りにどう影響を与えるのか、また、自分の身の回りに困っている人がいないかというところまで掘り下げて考えることができる生徒は少ない。

【4】本時の展開

本時のねらい

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
[導入] 3分	①前回の授業の振り返り 前回の授業で学んだことを紹介しながら、周りの人にちょっと言いにくい悩みを抱えていたり、今は大丈夫でも周りには言えない不安を抱えた経験がある人がクラスにもいるかもしれないと伝える。 本日のテーマが『見た目からは分からない悩みや不安を理解するために、どうしたらいいか考える。』ことだと説明する。		

[展開1] 3分	②グループピンゴブル ダブルカードの真ん中のイラストを使ってグループに分かれる。	・話さずにグループに分かれるように促す。	・ダブルカード
[展開2] 5分	③なりきり自己アピール カードの裏面のピクトグラムを使って、自己アピールをするように促す。(2分間)	・ピクトグラムのキャラクターになりきって自己紹介するように促す。	・ダブルカード
<p>目的 自分ではない誰かの立場を体験する。</p> <p>「それでは、ピクトグラムのキャラクターになりきって、班で自己紹介をしてみてください。」</p>			
[展開3] 5分	④内面カードの説明 内面カードの説明をして、生徒に内面カードを引いてもらう。(クラスの半分で使用する内面カードを分ける)	・内面カードは周りの人には見せない。また、内面カードの内容がイメージしにくい場合は、1回までは交換可とする。	・内面カード
[展開4] 5分	⑤ルールの説明と行き先の相談 内面カードと行き先カードを使って、行き先を相談する。(3分間)	・話し合いが進まない場合には、絶対に行くことができない場所をまずは言わせてもよい。	・行き先カード
<p>目的 話し合い活動を通して、自分とは違う事情を抱えている人がいることを体験する。</p>			
[展開5] 8分	⑥一言振り返り 自分の班の人が、どんな悩みや事情を抱えていたのかを振り返る。(2分間)		
<p>「今から、班のメンバーがどんな悩みや不安を抱えていたか予想してみてください。後ほど、内面カードの内容を見せ合うので、まずは内面カードを見せずにお互いの抱えていた不安を予想してみましょう。」</p>			
<p>振り返りが終わったら、教員の指示で内面カードを見せ合い、相手のカードを確認する。</p> <p>一言振り返りが終わったら感想を何人かに発言してもらい全体で共有する。</p> <p>目的 話し合いのときに周りの人を思いやることや、相手の立場に立って相手の悩みや事情について考えることの難しさを確認する。</p>			

<p>「どうでしたか。相手の悩みや不安を想像するのは難しかったかもしれません。それでは、今から2回目を行いたいと思います。しかし、その前に外見からは分からない悩みや不安に気づくために、どのように話し合いを進めると良いと思いますか。ちょっと考えてみてください。」</p>			
[展開6] 5分	⑦もう一度、行き先を決めよう!! 内面カードを交換して、再度、行き先の相談を行う。(3分間)	・内面カードを交換する。	
<p>目的 相手の立場に立って相手の悩みや事情について考えることの難しさを確認したうえで、再度、どうしたらそれを実践できるかを考える。</p>			
[展開7] 4分	⑧一言振り返り(2回目) 自分の班の人が、どんな悩みや事情を抱えていたのかを振り返る。(2分間)		
<p>振り返りが終わったら、教員の指示で内面カードを見せ合い、相手のカードを確認する。</p> <p>目的 先ほどの気づきをもとに、自分が相手の立場に立って物事を考えることができたかを振り返る。</p>			
<p>「どうでしたか。1回目と2回目で違いはありましたか。班のメンバーとどんな事に気を配って2回目に取り組んだか、ちょっと話し合ってみてください。」</p>			
[展開8] 9分	⑨ワークシートの記入 ワークシートを配布して、1、2の質問に記入させる。その後、ワークシートの内容をグループや全体で共有して、考えを深める。最後にワークシートの3の質問を記入するよう促し、本時の学びをまとめる。	・教員の指示で、記入する質問を限定してもよい。	・ワークシート
[まとめ] 3分	⑩まとめ		

【5】学校内で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校内で国際理解教育を広めるために、学年の4クラス一斉に作成したワークショップをもとに実践授業を行った。事前に簡単な打ち合わせで授業の流れを確認しただけだが、全クラスおおむね同じような方法でワークショップを実践することができ、ねらいに沿った生徒の学びや気づきが得られた。

【自己評価】

【6】苦労した点

ダブルによるアイスブレイクと行き先を決めるという一連の流れを50分の授業の中で行うことに苦労した。特に、ワークショップ後の生徒の気づきを大切にするために、生徒同士が話し合う時間を確保することが大変難しかった。

また、生徒が今回のワークショップをより身近に感じてもらうために、ワークシートの発問をどのようにしたらいいか悩んだ。

【7】改善点

授業の中で、生徒が振り返りを共有する時間がこのワークショップにおいて大切だと思うので、生徒の話し合う時間や自分自身について振り返る時間を確保することが大切だと思う。そのためにも、ルールなどの説明はできる限りシンプルに行うことや、アイスブレイクの時間を最小限にすることなどが必要だと思う。

【8】成果が出た点

教員が生徒に今後、人間関係において具体的にどういことを気をつけていくべきかを説明しなくても生徒の方から、今後に向けた具体的なアイデアがたくさん出ていた。

【9】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

- ・クラスにも見た目からは分からないような悩みや、周りの人には言えない不安がある人もいると思うので、それを言いやすいクラスにできるといいと思いました。
- ・相手に気を配らなければいけないことには、怪我などの見目で分かることと、言葉にしないと分からないようなことがあると分かったので、相手の気持ちを考えたり、敏感に雰囲気を感じ取ったりしていく必要があると分かった。このようなことができればいい人間関係が築けると思う。
- ・悩みは誰でもかかえているものですが、大きなものじゃなくても誰かに言うと、変な目で見られたり、友達がはなれていくかもしれないと思って言えないこともあると思いました。悩みなんて簡単に打ち明けられるものではないので、それを考えて行動できるようにしていきたいです。

行き先カード出典：「いらすとや」<https://www.irasutoya.com/>

「illust AC」<https://www.ac-illust.com>

外見カード出典：「ヒューマンピクトグラム2.0」<https://pictogram2.com/>

【内面カード その1】

外で遊ぶのが 苦手	水が怖い
運動が苦手	動物が苦手
長時間歩きまわ るのが苦手	お小遣いが 少ない
人が多い場所は 苦手	にぎやかな所は 苦手

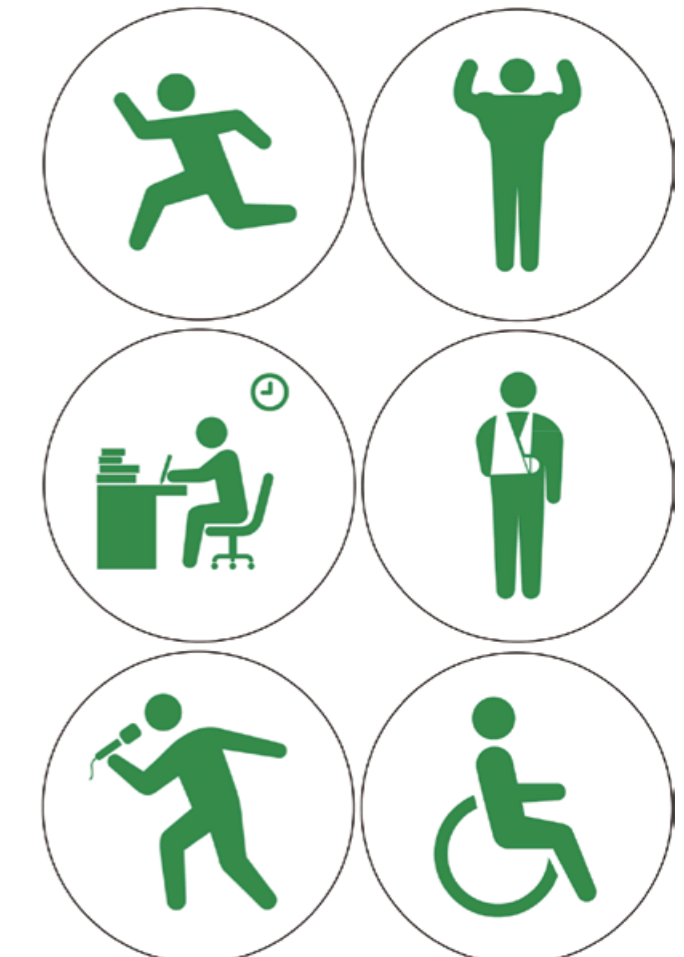
【内面カード その2】

室内で遊ぶのが 苦手	乗り物に 酔いやすい
大きな音が苦手	ずっと座ってい るのが苦手
人の家には 行くなと親から 言われている。	絶叫マシーンは 苦手
泳ぐのが苦手	自転車を持って いない

【行き先カード】



【ピクトグラム】





たぶん、可？ ～相互理解～

【実践者】

	氏名	小島 寛子	学校名	横浜市立横浜商業高等学校
	担当教科等	英語	対象学年(人数)	1年7組(37名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2021年12月6日(1時間)		

【実践概要】

【1】実践教科・領域

総合的な探究の時間

【2】授業テーマ

〈授業テーマ〉「相互理解」

〈関連する学習指導要領上の目標〉

新学習指導要領の「総合的な探究の時間」において、その目標は、「探究の見方・考え方」を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指すものであることを明確化された。第一節において、以下のようにより具体的に書かれている。

- 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようになる。
- 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

この中で特に(3)に挙げられている、「学びに向かう力、人間性等」がこの授業の中では重要である。他者と協働的に取り組み、異なる意見を生かして新たな知を創造しようとする態度が欠かせない。こうして探究に主体的・協働的に取り組む中で、互いの資質・能力を認め合い、相互に生かし合う関係が期待されている。探究の時間がより良い学びとなるためには、生徒一人ひとりがその存在を認め合い、尊重し合える関係性が必須であると考え、多文化共生を授業のテーマに設定した。

【3】授業設定の理由・意義（生徒観、教材観、指導観）

【授業設定の理由】

探究の時間の活動を通して、国際学科の生徒として自覚が生まれ、学科の活動や社会問題の解決に熱心に取り組む生徒が多くなった。その中で、自分の目標が明確な生徒ほど、周囲への要求が高くなり、相手の気持ちや事情を理解しようとせずに責めることができた。外国につながる生徒も多くいるこのクラスでは、相手の事情に配慮したり、思いやったりする心の広さが必要だと感じ始めていたため、この授業を設定した。

【授業の意義】

ロールプレイを通して自分ではない人になることで、他人の立場を理解できるようになる。また、外見だけでは判断できない内面があること、その内面を知るためにはコミュニケーションをとることが大切であることを理解できる。

【児童／生徒観】

37人中、男子生徒7名、女子生徒30名のクラスである。男女共に明るく積極的で、人と話すことや関わるのが好きで自分の意見をしっかりと持っている生徒が多い。一方で、その集団の雰囲気になかなか馴染めず、自分の意見を言えない生徒も複数いる。また、国際学科という特性上、国際社会問題に興味を持つ生徒が多く目的意識が高いので、自分と違う意識や意見を持っている人に対して、また意見を言えない人に対して悪気はないがはっきりと伝えすぎてしまい、傷つけてしまうことがある生徒もいる。

【4】本時の展開

本時のねらい 多文化共生について考えるきっかけをつくる。自分ではない内面を持つキャラクターを演じることで、他者を理解しようとする態度を育む。他者理解のためには、思いやりと対話が重要だと理解する。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
[導入] 10分	5人グループの形を作らせる。 ダブルカード配布・説明。 <u>アイスブレイク</u> 必ず同じ絵があるので、それについて思い出や考えを話そう。時間内でなるべく多くの人たちと話してみよう。	ペアを見つけれられていない生徒へ声掛けをする。	ダブルカード スライド1、2
	<u>グループになろう</u> カードの真ん中の絵を見てグループになろう。ただし、話してはいけません。	話さないよう注意を促す。	スライド3
	本当にそのグループだけでしょうか？		スライド4

	自分の思い込みで判断していませんか？ その思い込みで誰かを傷つけていませんか？		スライド 5、6
	多文化共生の定義と本時のめあて		スライド 7~10
[展開]	ワークショップ		スライド 11~13
8分	1) ピクトグラムになりきろう ダブルカードの裏面にある、ピクトグラムから想像する人物になりきって自己紹介をするよう指示する。		スライド 14
	でも人には外見からは判断できない、人には言いたくない内面がありませんか？		
	カード 2種類(内面カード・お店カード)をグループに配布。		
8分	2) グループでお店と衣装を決めよう【1回目】 ルールを説明する。	内面カードを直接言っていたら注意を促す。	スライド 15~18
	話し合い中はどんな気持ちでしたか？ お互いのことをどう思いましたか？	親友のいない生徒の感想を共有する。	スライド 19
	どうすれば話し合いはもっとうまくいききましたか？		スライド 20
	お互いを理解しようとするコミュニケーションが大切なのではないのでしょうか？		
14分	2) グループでお店と衣装を決めよう【2回目】 座席を一つずれるよう指示し、ルールの確認。	1回目とのルールの違いを理解できていない生徒には助言する。	スライド 21
	理解しようとする話し合いを意識してみてください。話し合いの中で、内面カードについて自分が話しても良いと思えたら、話してもいいですよ。		
	話し合い中はどんな気持ちでしたか？ 内面カードの内容について話すことができましたか？		
[まとめ]	振り返り		スライド 23~27
5分	振り返りシートを配布		
	1回目と2回目では何か違いがありましたか？	生徒からの意見を全て受け入れる姿勢を忘れない。	
	誰もが安心して発言できるクラスであるためにできることは何でしょうか？		

まとめ	明日の朝までに振り返りシートを提出するよう指示する。
-----	----------------------------

【5】学校内で国際理解教育・授業実践を広める取組

生徒への授業実践の前に、メンター研修として先生方を対象にこのワークショップを行った。「多文化共生の学校作り」というタイトルで、約90分に拡大して行ったが約25名もの先生方が参加してくれた。「ゲーム感覚ながら、他人の立場になって考えられた」「今日グループになった先生も様々な文化を持っている。やはり相手を理解・受け入れるためにはコミュニケーションが大事だ！」などという感想をもらい、このワークショップを通して多文化共生の授業に興味を持ってくれた先生方が増えたと感じた。また、1月に3年生の最後の授業で20分に縮小した形のワークショップを行った。3年生には特に多くを語らずとも、ワークショップの最中から様々な意見が出てきたことがとても興味深く、学年初めにやるのとはまた違う意味を持たせることができる授業だからこそ、構えずにどんどん実践していきたいと思った。

【自己評価】

【6】苦労した点

1. 内面カードと行き先カードの選定

生徒間での知識に差が大きく、どこまで具体的に書けばキャラクターを演じることができるのか、判断するのに苦労した。また、行き先もテーマを決めようとする設定が難しく、実際の今回は文化祭という必ず体験するものとしたが、一度しか使えないという点も難しい。

2. ピクトグラムと内面カードの組み合わせ

どちらかの内容にインパクトがあると、そちらに引っ張られてしまいもう一方を演じるのを忘れてしまうという点が難しい。

【7】改善点

ダブルカードと「たぶん、か」のワークショップは分けた方が良かった。2つを50分で実践できることは分かったが、すでにクラスの雰囲気ができている場合にはダブルカードを省き、「たぶん、か」を授業内で完結させた方が良かった。具体的には、振り返りシートを記入させ、その内容をグループと全体で共有するという点だ。

【8】成果が出た点

日常生活の中だけでなく協働学習を行う中で、自分の意見を言う前にその発言内容を考えてから発言するようになったと感じる。また、他の人の意見を聞く際にも、例え自分の意見と違う場合でもまず受容しようという態度が見られるようになった。相手を尊重するような発言も多く聞こえるようになったと感じる。

【9】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

「たぶん、可！」ワークショップ 振り返りシート

1. あなたのピクトと内面カードは？

ピクト: 元気 内面: フラジル. イヤタカは食べられない

2. その人物になりきれましたか？その理由は？

はい ・ いいえ

その理由は？
ピクトはやりがらくない

3. ワークショップ中はどんな気持ちでしたか？

親友がいない人とならんで、親友がいないと、ほかの人と交流しにくいのが感じましたので、ほかの人がそうになった場合は、相談したほうがいいと思いました

4. このワークショップを通して感じたこと、思ったことは何ですか？

他の人の生き方を尊重しなさいと、親友と話すだけでなく、いろんな人と話し合えることが大事

5. 誰もが心地よいと思えるクラスになるために、何が必要だと思いますか？

自分の考え方をほかの人に伝えることと、自分の考えや気持ちを言えない人がいたら、その人の気持ちを聞くことも大事だと思います。→ 他人の考え方を受け入れることは必要



「たぶん、可！」ワークショップ 振り返りシート

1. あなたのピクトと内面カードは？

ピクト: 元気な子 内面: 髪、髪と顔と、豚肉が食べられない

2. その人物になりきれましたか？その理由は？

はい ・ いいえ

その理由は？

人のと自分と照らし合わせて、時に少しにいた。

3. ワークショップ中はどんな気持ちでしたか？

親友がいない人は、中には内面に思っているのどかたを気にする人が

4. このワークショップを通して感じたこと、思ったことは何ですか？

話し話を進めると、一定の人下りで、本音に気づく

5. 誰もが心地よいと思えるクラスになるために、何が必要だと思いますか？

自分だけでなく、みんなが心地よい環境で、クラスの色んな人から、本音に気づく。みんなの顔色や、声に気づく。自分と他人の顔色や、声に気づく。自分と他人の顔色や、声に気づく。自分と他人の顔色や、声に気づく。



「たぶん、可！」ワークショップ 振り返りシート

1. あなたのピクトと内面カードは？

ピクト: 元気 内面: レスピアン、潔癖症、エビ・カニアレルギー

2. その人物になりきれましたか？その理由は？

はい ・ いいえ

その理由は？

自分と全く違う考えなどをもって、想像するのが難しかった。後からよやくよく考えみると「これじゃあいい方が良かったかな？」と、思ったりもした。ワークショップ中はどんな気持ちでしたか？

仲間(親友)がいると、気遣ってもらいやすくて気が楽だった

→ 自分と自分と違う人がいること、自分で自分について発言することの大切さを感じた

どんな人も理解しようと、その人の立場に立って深く考えることも重要だと思った。周りの人の小さな行動にも気づける人になりたい。

5. 誰もが心地よいと思えるクラスになるために、何が必要だと思いますか？

どんな人も理解しようと一人一人が思えること。自分が何を言っても理解してくるような寛容な雰囲気がある人は、気が楽だった。自分と他人の顔色や、声に気づく。自分と他人の顔色や、声に気づく。自分と他人の顔色や、声に気づく。



たぶん、可!

国際学科主任 小島 寛子



ダブルカード

一人一枚カードを持ってください。

1. アイスブレイク 【5分】

同じものを見つけ、それについてお互いの思い出や考えを話しましょう! なるべくたくさんの人と話そう!




ダブルカード

一人一枚カードを持ってください。

2. グループになろう

真ん中の大きな輪に注目! ただし話してはいけません! なれたら席に座ってください。




本当にそのグループ だけでしょか?



自分の思い込みで判断 していませんか?



その思い込みで誰かを 傷つけていませんか?



本日の流れ

1. 多文化共生とは?
2. ワークショップ
3. 振り返り

「多文化共生」と聞いて 誰を思い浮かべますか?

国籍や民族などのことなる人々が、互いの文化的違いを認め合い、**対等な関係を築こう**としながら、**地域社会の構成員として共に生きていくこと。**(総務省)





本日の流れ

1. 多文化共生とは?
2. ワークショップ
3. 振り返り



ピクトグラムで ロールプレイ

1. ピクトグラムに なりきろう【5分】

ピクトグラム(その外見)からどんな人物かを想像し、自己紹介してみましょう。

いつも冷静沈着な寛子です。



アルベルトの場合。

アルベルトは最近、ペルーから横浜に引っ越してきました。外見から「英語が得意そう!」と言われるのですが、スペイン語が母語であり、英語は話せません。

アルベルトはサッカーが大好きですが、外で遊ぶよりも本を読んでいる方が好きです。最近自分の家族のことで悩んでいます。



ピクトグラムで ロールプレイ

2. 実は人にはあまり 言いたくない内面が あります。

内面カードを引いてください。人に見せたり話してはいけません。



ピクトグラムで ロールプレイ

3. グループで Y校祭に出すお店と衣装を 決めよう!

内面カードの内容を直接人に見せたり話してはいけません。



進め方

始める前に...

隣の人は「親友」です。内面カードを見せて、お互いどんなことが嫌だったりできないのか話しましょう。【1分】

1. リーダーを決める。
2. リーダーは2枚カードをめくり、話し合いを始める。
3. 決まらなと思ったら、カードを1枚ずつ足していく。

注:内面カードの内容を **直接** 言ってはいけません。

ピクトグラムで ロールプレイ

3. グループでY校祭に出すお店と衣装を決めよう! 【3分】

内面カードの内容を直接人に見せたり話してはいけません。

リーダーさん! 必ず決めて!



衣装候補

- ①着ぐるみ
- ②フォーマル (アメリカのプロムをイメージ)
- ③メイド服 (男女共に)



1. 話し合い中は自分はどうな気持ちでしたか? 互いのことをどう思いましたか?
2. どうすれば話し合いはもっと上手くなりましたか?

お互いを理解しようとするコミュニケーション



本研修からの最大の収穫は？

ピクトグラムで
ロールプレイ

4. 2回目
グループでY校祭に出すお店と
衣装を決めよう！ 【10
分】

内面カードの内容を直接人に見せてはいけません
が、話したくなったら話しても良い。

5. 振り返り
【5分】

話し合い中はどんな気
持ちでしたか？

相手のことをどう感じま
したか？

内面カードを話すこと
ができましたか。

本日の流れ

1. 多文化共生とは？
2. ワークショップ
3. 振り返り

Y-kokusaiが目指す人とは？

誰もが安心して発言ができるクラスであるために、
できることは何でしょうか？

相手のそのままを
受け入れようという姿勢

Thank you!

菊池 史織



一つは、新たに学びを深めたいと思うものを見つけたこと
です。チームビルディング、ファシリテーション、人と人が
集まり活動する際に自身ができることを学び、寄与したいです。
間で学びは変わるということを研修の中で痛感したので効果的
な問を投げかける人物になりたいです。もう一つは、仲間です。

「発

問」の在り方です。発問次第で、子どもの学びは大きく
変容することが分かりました。教師は、学習の目標達成を
最優先するあまり、無意識に発問が誘導的になりがちです。教師
も中立的な立場になって、目の前の子ども達と一緒に考える、と
いう姿勢が表れるような発問を常に心がけていきたいです。



金城 裕哉

小島 寛子



素

敵な仲間に出会えたこと！校種や置かれている立場も
様々ですが、生徒たちのために学びたい、成長したいと
いう熱い想いを共有できて、一緒に学べた6人と時間を共に
できたことが最大の収穫です。また、6人以外にも研修を通し
て出会った方々との出会いもまた、宝物です。

ワ

ークショップの作成を通して、仲間と一つの目標に
向かって取り組むことができたことです。価値観の
違いから意見がうまくまとまらないこともありましたが、
一生ものと思える仲間に出会えたことが私にとっ
て最大の収穫です。



鳥原 大嗣

三枝 涼輔



同

じ思いをもった仲間ができたことです。フィールドワーク
に出かけたり、オンラインで話し合いをしたりと、久しぶ
りに部活のような、サークルのような感覚を味わいました。仲
間であり、尊敬している先生だからこそ、毎回の集まりが刺激
的で、自分自身のやる気にもつながりました。

「6

人の仲間」が得られたことです。1年の研修を通じて、研
修以外でもミーティングを繰り返し、学校や対象の違う
教員として関わる6名と時間を共有することができました。年
齢に関係なく、お互いの意見を自由に言い合える仲間がいてく
れることは、私にとって研修を通じての最大の収穫です。



森 倫 範

渡 辺 香



人

との出会いです。改めて、人生の財産は人だと感じまし
た。この研修を通して、出会ってくださったすべての皆さ
んに感謝します。特に、研修員の先生方とは数えきれないほど
の議論を重ね、その中で多くの価値観に触れ、ものの本質を
問いながら新たな見方、考え方を獲得することができました。



困りごとを通じて、 多文化共生を理解しよう

【実践者】

	氏名	森 倫範	学校名	学校法人平成医療学園 横浜医療専門学校
	担当教科等	臨床柔整学Ⅰ	対象学年(人数)	1年A/B組(53名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2021年12月21日(1.5時間)		

【実践概要】

【1】実践教科・領域

総合的な探究の時間(臨床柔整学Ⅰ)

【2】授業テーマ

〈授業テーマ〉「会話を通じて、相手を知る」(相互理解・寛容、配慮)

〈関連する学習指導要領上の目標〉

目に見えない問題や課題を、他者との会話を通じて認知し、その問を今の自分の立場や考え方に
加え、相手の立場で考えることや配慮することができるようになることを目標とした。

〈総合的な探究の時間〉

探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、
よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

【3】授業設定の理由・意義 (生徒観、教材観、指導観)

【授業設定の理由】

将来携わる柔道整復師の現場を考えると、学生が接する対象は「何かに困っている患者」がほと
んどであり、仕事仲間でも手助けを求められることが多い。そのため、他者と相互に理解ができる
関係づくりや、相手の立場を理解した上で、「どのように声かけができるか」を考えられる人材に
なって欲しい。

上記学生の実態に合わせ、他者の立場に立って物事に取り組むきっかけを作るため、「会話を通
じて、相手の外面から測ることができない感情や状況に思いを巡らせ、その内容を受け止め(相互
理解・寛容)、どのような心配り(配慮)ができるかを考える」ワークショップを通じて、これからの将
来にどのような相互理解の仕組みや配慮、考え方が求められているかについて、学生間で考える時間
としたい。

【授業の意義】

本時で扱う内容項目は、「会話を通じて、相手の外面から測ることができない感情や状況に思い
を巡らせ、その内容を受け止め(相互理解・寛容)、どのような心配り(配慮)ができるかを考える」で
ある。特に学生が現在学んでいる柔道整復学においては、施術者と患者の間で生じる「信頼関係(ラ
ポール)」を築くために、まずは相手の話を相手の感じている感情や置かれている状況に合わせて
傾聴し、相手の立場で理解することが必要となる。学生は今後の臨床でその様な相互理解を実践す
るために、自分に何が足りていて何が足りないかを出来るだけ初学の段階で認知することが重要で
ある。そこで、目に見えない問題や課題を、他者との会話を通じて認知し、その問題を今の自分の
立場や考え方に加え、相手の立場で考えることや配慮することを共有することを目的に主題を選ん
だ。

【児童／生徒観】

学生は18-21歳が大多数であるが、社会人として勤務またはこれまで社会人として勤務した経
験を持った学生も含まれており、多様な社会背景を持っている。各クラスの雰囲気としては、個々
でグループを形成しているものの、グループ間では仲の良い関係もあれば、あまり接点を持たない
グループもあり、多種多様である。授業内では、各講義でのグループディスカッションを通じて、
それぞれの意見を共有または共感できる基盤は養われている。学生同士では、画一的または単一的
な個人・集団と考えられることを好まない傾向にあるものの、孤立的に著しく他の学生と違う立場
になることを嫌う雰囲気がある。また状況によっては、他者の困りごとを、自分には全くの無関係
として捉えてしまう場合もある。この点に関しては、将来の仕事に影響するため課題である。

【4】本時の展開

本時のねらい 90分の授業の中で、2021JICA 教師国内研修作成教材「たぶん・か」を用いて、「多
文化共生」をテーマとした2つのワークを実施。医療系の学校という特性を活かし、
医療関係者と患者の両側面を体感できるよう構成して進めた。1つめのワークでは
「会話とジェスチャーの重要性」をテーマに、2つめのワークでは「見えない内面を
予想しつつ、複数の希望の合意点を探す」をテーマに実施した。

過程・ 時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
[導入] 3分	注意事項を説明する。 シールに「今日呼んで欲しい名前」を書いて、胸に貼って下さい。 前週に行った「多文化共生」に関する内容の 概要を確認してから進める。	学生自身がリラックスし、 同等な立場で発言しあえる 環境を整える。	ネームシール 色ペン、PC プロジェクター スピーカー +マイク
	今回の講義では、多文化共生について考える時間を2種類、3つのワークショップを用いて考 えてもらいます。		

[展開] WS1-1 3分	これから使用するダブルカードについて説明する。カードの説明の後、実際にワークの内容を説明する。「喜怒哀楽」については「感情」というキーワードを用いて、教師自身が表現しつつ説明する。	ダブルカードを配布して、カードを確認するよう促し、相互に確認する図柄等を認識するように促す。	ダブルカード
WS1-1 [確認] 3分	実際に撮影した写真から、相手の表情から感情を読み取ることができるかを体験する。	ダブルカードの内容について確認できる時間を取る。孤立しそうな学生がいるあたりを見つつ説明する。	ストップウォッチ 学生の携帯電話
撮影した写真を見せ合って、写真から感情が読み取れるかどうか確認してみましょう。			
WS1-2 3分	・2回目は以下の条件を追加して実施するように説明する。	孤立した学生がいた場合は、周りのグループに入るように促す。	ストップウォッチ
次は、感情の身振り・手振りを使わずに、一緒に写真を撮影しましょう！			
WS1-2 [確認] 6分	任意のグループに分かれて、6名のグループ毎に意見を交換できるように促す。	学生が分かれやすいように促す。 グループの識別がしづらい学生にはアドバイスをする。	ストップウォッチ 学生の携帯電話
ダブルカードの真ん中の絵に合わせてグループに分かれて、撮影した写真から、感情が読み取れるかどうか確認してみましょう。			
WS1の 入力 9分	自分達の判断で、マークを用いてグループ化化する。マークに関する判断基準を学生間で考える時間を設ける。 Google Classroomに設置したWS1用Formsへの入力を促す。	ClassroomとFormsをプロジェクターで表示する。学生にマイクを渡して具体的な内容について発言してもらう。	PC、 プロジェクター スピーカー +マイク 学生の携帯電話 学内Classroom・Forms 学生の携帯電話
“相手の感情を理解するには何が必要ですか？”・“自分の思い込みで相手の感情を誤解しないためには何が必要ですか？”についてFormsから入力しましょう。			

WS1の 入力内容 の共有 8分	実際に入力データをプロジェクターから投影し、入力した学生2-3名から全体に向けてその内容の意味を説明してもらう。その内容を鑑みて、まとめに向けての意見を絞っていく。	言語的感情表現と、非言語的感情表現を分けて理解することを促す。	マイク プロジェクター PC
実際にどのような意見が出たか聞いてみましょう。			
[まとめ] WS1 3分	積極的に発言し易い学生から指名し、その後普段は発言しにくい学生や年齢の高い世代の違う学生を指名することで、多様な意見に触れる機会を作る。	内容が理解できない学生には周りの学生が説明するなどして、相互理解ができるように促す。	プロジェクター PC ピクトカード (ダブルカードの裏) 内面カード 学生の携帯電話
感情は、言葉を用いないコミュニケーションによって表現されている場合もあります。その表現をどのように受け取るかによって、相互理解の内容が代わります。相手の立場に合わせて言葉による表現と、態度による表現を理解するようにして、誤解のない相互理解を目指しましょう。			
WS2 10分	これまでに学習したことのない内容について、自分で調べ、文章から理解・表現する過程を加えることで、短時間で調べ理解することを体験する。相手の状況を演じることで相手を理解するきっかけを体験する。	外観・内面・特性の3つの条件を与え、その条件に沿った行動ができるように促す。	ピクトカード 内面カード
これから10分の時間を使って、今のグループで“全員が安心して楽しく出かける場所”を決めましょう。 条件はダブルカードの裏にあるピクトグラムの外観になりきってください。さらに内面カードを配布します。その内面カードは周りの人には見せないでください。内面カードにはこれまでの授業で学んでいない内容もありますので、わからない場合は自分の携帯電話で調べても大丈夫です。最初の3分で役作りをして、残り7分で“全員が安心して楽しく出かける場所”を決めましょう。			
WS2 振り返り 8分	内面がわからない状況で、相手の行動から状況を理解する場面を作る。“感想”という主観的表現が出やすい設定とすることで、“行動から相手の状態を理解・予想すること”を体験する。	内面カードをまだ見せない点を強調する。話せているかを確認しつつ、発言していない学生がいた場合は、発言を促す。	マイク プロジェクター PC
“全員が安心して楽しく出かけられる場所”は決まりましたか？ お互いの内面カードを見せたり説明せずに、“終了後の感想”を共有しましょう。			

WS2 振り返り2 8分	内面を理解した上で、相手の行動から状況を理解する場面を作る。“相手の条件に基づいた行動”と“自分の理解や誤解”を併せ考えることで、“行動から相手の状態を理解・予想することの難しさや演じる難しさ”を考える。また抱えている問題は普段触れる患者が持っている条件でありうるものであることを知り、自分の行動を考える時間を設ける。	お互いの内面カードを見る前と見た後でどのような変化を感じたかに焦点を当てるように促す。	マイク
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>会話から、その人の内面的性格や感情、抱えている問題や体の特性は分かりましたか？ お互いにカードを見せ合って、 1) 予想と実際の違い 2) 演じる難しさ などについて話し合ってみましょう。</p> </div>			
WS2 問いかけ 2分	性別は“状況を理解する妨げ”になるかどうかを考える機会を作る。	性別がテーマの障壁になるかならないかについて考えてもらう。	学内 Classroom-Forms 学生の携帯電話
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>“性別”が行き先を決めるための障壁となりましたか？</p> </div>			
WS2の 入力 8分	Google Classroomに設置したWS2用Formsへの入力を促す。	学生にマイクを渡して具体的な内容について発言してもらう。	マイク プロジェクター PC
[まとめ] 4分	本授業の目的であるに見えない問題や課題を、他者との会話を通じて認知し、その問を今の自分の立場や考え方に加え、相手の立場で考えることや配慮することができるようになることを理解できたかを確認する。今後の課題についても説明する。	学生が問題や課題を理解しやすいように、ゆっくりと説明する。	マイク
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>医療現場における“多文化共生”は、“国籍や民族など(思想や感情)の異なる人々”が、互いの文化的(+社会的)違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、“地域社会(医療現場)の構成員として、共に生きていくこと”と考えることもできます。 日々の経験に多文化共生の視点や工夫を加えることで、皆さんの未来が変えられます。</p> <p>多文化共生を日々の生活で工夫・実践するにはどうしたらいいかについて、今後の課題として考えてください。</p> </div>			

【5】学校内で国際理解教育・授業実践を広める取組

所属長や学校長に授業実践の必要性や効果について説明することで、理解を深めている。
また日本語学科があるという特性から、学生間で国際理解や日本以外の国の文化に積極的に触れていくことの重要性などを、日本語学科の教職員と共有する時間を設けている。

【自己評価】

【6】苦労した点

2種類のワークショップ(WS)3回を条件変更して実施したため、学生の理解や協力がなければできなかった。また参加者が53名と多く、グループワークが9グループで同時に実施したため、各グループで「問い」や「気づき」があってもその場ですぐに内容を拾い「今ある問い」をさらに深めるための「新たな問い」を提案しながら、議論を活性化することが難しかった。リアルタイムでアンケートを取りながらも、具体的な回答を上手く取り上げて場の状況に合わせて「新たな問い」を提案することが難しかった。

【7】改善点

より活発な議論が進むために、参加者数に合わせてファシリテーターを増やすことや、学生の中により高学年の学生をTAとして入れることにより活発な議論ができるのではないかと考えられた。
今回のテーマを考えることのできる「具体的かつ身近な問い」の準備が十分ではなかった。WS前に学生が理解やイメージしやすい問いの提案をすることで、さらに活発な議論を促進できるのではないかと考えられた。

【8】成果が出た点

終了後のアンケートにて、「多文化共生を実践するために何が大切だと思いましたか？」という問いに対して、「お互いの状況の把握や価値観の違いを理解することが必要」、「相手のことをよく観察して、理解する努力が必要」という答えがあった。
多くの学生が相互理解のための「他者への配慮」の重要性と、「何を持って公平か？」という問いに対して、他者の意見を聴き、議論することで理解を深められていた。

【9】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

質問1：多文化共生を実践するために何が大切だと思いましたか？

- ・お互いを理解しようとする気持ち、理解するために知識を得ること。
- ・相手の意見を聞いて、表情や仕草を見ることが大事だと思いました。
- ・国籍が違うとか性別が違うことなどだけではなく、人間同士として相手を理解すること。
- ・コミュニケーションと自分の不安なことを伝えることが大切だと思いました。
- ・潜入感 感情移入 積極的に考える事

質問2：他の人に多文化共生を他の人に伝えるとしたら何と説明しますか？

- ・思いやり。
- ・自分と同じ意見を持つばかりではない、自分の考え以外の多種多様な考え方。
- ・相手の弱さを知って関わること。
- ・全ての人と対等に関わること。
- ・色々な垣根を越えて互いに互いを理解すること。
- ・いろいろの人たちの文化を楽しむことができること。
- ・自分勝手に判断せず、よく考えること。

出典：場所・イラスト関係

ゆるかわイラスト無料素材集：「いらすとん」<http://www.irasuton.com>

かわいいフリー素材集：「いらすとや」<https://www.irasutoya.com>

ピクトグラム関係

「HUMANPICTOGRAM2.0」<https://pictogram2.com>

当日使用したスライド

事前準備

- ・シールに「今日呼んで欲しい名前」を書いて、胸に貼って下さい。
- ・Classroom に名前があった人は呼ばれたら前に集まって下さい。

多文化共生を
理解しよう！

ミチ

2021JICA教師国内研修
作成教材：「たぶん・か」使用


あらためて・・・
多文化共生とは？

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、**対等な関係**を築こうとしながら、**地域社会**の構成員として、**共に生きていくこと**。

(総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書より)

日常生活に多文化共生は？

必要性をどんな時に実感する？




本日の体験

(前半)

1. ワークショップ1-1,1-2
2. 振り返り1

(後半)

3. ワークショップ2
4. 振り返り2



ワークショップ1-1

ダブルカード 同時にカードを見せると、必ず1つ同じマークがあります。

(条件)

- ・競争が終わったら、「喜怒哀楽」のどれかを選んで一緒に写真を撮りましょう！
- ・感情を「目一杯表現」して一緒に写真を撮りましょう！

(制限時間)
・3分間



Let's start!

Time up!

Time up!

グループに分かれて、撮影した写真から、
「感情が読み取れる？」
かどうか確認してみよう！



真ん中のイラストのグループに
わかれて下さい。

写っている人の感情が...

分かった！ 分からない！

6分間で確認・共有しましょう！

撮影した写真を見せ合って、
「写真から感情が読み取れる？」
確認してみよう！

3-5人で集まって、
6分間で確認してみましょう！

写真から感情は
読み取れましたか？

読み取れなかった人は？

Let's thinking!

Time up!

ワークショップ1-2

ダブルカード

(条件)

- ・競争が終わったら、「喜怒哀楽」のどれかを選んで一緒に写真を撮りましょう！
- ・感情の身振り・手振りを**使わず**に、一緒に写真を撮影しましょう！

(制限時間)
・3分



Let's start!

ワークショップ1の振り返り

相手の感情を理解するには何が必要ですか？

自分の思い込みで相手の感情を誤解しないためには何が必要ですか？

- ・Classroom
or
・画面QRコード
から回答して下さい。



本日の体験

(前半)

1. ワークショップ1-1,1-2
2. 振り返り1

(後半)

3. ワークショップ2
4. 振り返り2



ワークショップ 2
 (ワークのゴール)
 「全員が安心して楽しく出かける
 場所を決めましょう！」
 (制限時間)
 10分(役作りと調査は最初の2-3分で！)


Let's **役作り&調査!**

ワークショップ2の振り返り-3
 お互いにカードを見せ合って、
 1)予想と実際の違い
 2)演じる難しさ など
 を共有しましょう！

ちなみに…
 「性別」が行き先を決めるための
障壁となりましたか？

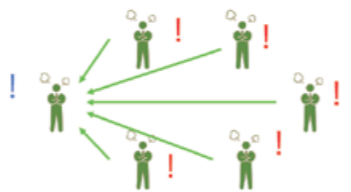
Let's **場所決め!**


Time up!

ワークショップ2の振り返り-4
 自分とは異なる意見や立場の人と、
 お互いストレスなく活動していくため、
 「お互いにどのような内容の共有」
 が必要だと思いましたか？
 ・Classroom
 or
 ・画面QRコード
 から回答して下さい。


多文化共生とは？
 国籍や民族など(思想や感情)の異なる
 人々が、互いの文化的(+社会的)違い
 を認め合い、対等な関係を築こうとしな
 がら、地域社会(医療現場)の構成員とし
 て、共に生きていくこと。
 (総務省:多文化共生の推進に関する研究会報告書の一部改変)

ワークショップ2の振り返り-1
 「全員が安心して楽しく
 出かけられる場所」
 は決まりましたか？
 お互いの内面カードを見せたり
 説明せずに、「終了後の感想」
 を共有しましょう！

ワークショップ2の振り返り-2
 会話から、その人の内面的性格や感情、
 抱えている問題や体の特性は
 分かりましたか？


多文化共生を日々の生活で
 工夫・実践するにはどうしたらいい？
 Take Home Message


終 幕
 ・Classroom
 or
 ・画面QRコード
 から回答して下さい。


本研修に参加した感想

三枝涼輔

WS 作成の楽しさ、奥深さを身をもって感じました。学び要素、楽しさ、シンプルさのバランスが難しく、何度も試行錯誤しました。自分なりにもっとWSを考えていきたいという気持ちも芽生えました。この経験は、日常の授業にも活かしていけると感じました。

鳥原大嗣

今 まではワークショップをJICA横浜で体験する立場でしたが、ずっと憧れだったこの研修に参加することができて嬉しく思います。このような機会を与えてくださったJICA横浜、メディア総合研究所の皆様、貴重な時間を割いてくださった講師の方々や過年度の参加者の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

森 倫範

本 当に参加して良かったと感じています。もし、次年度以降に参加を考えられている先生がいたら、「是非参加して下さい!」とお勧めします。思い悩むより飛び込んで、知らない世界に触れて、新しい仲間とこれまでにない自分を見つけ、新しい自分になれるチャンスを手探りで欲しいと願っています。

小島寛子

研 修のワークショップ作りをする過程で、自分の弱点や欠点に気づき、反省することが多々ありました。「この研修の目的はワークショップ作りではありません」と言われてその時はピンとこなかったのですが、今はよく分かります。本当の目的は?是非この研修に参加して、答えを探してみてください!

金城裕哉

研 修を通して、想像以上の見聞を広めることができました。また、体験した多種多様なワークショップは、驚きと感動を私に与えました。研修で得た知識をぜひ校内にも広めたい、このワークショップは明日にでも活用したい、と常に考えています。幾つかのワークショップは校内研修の一つとして今後提案する予定です。

渡辺 香

私 はこの研修に参加し、学ぶことの大切さ、学びを止めないことの大切さをひしひしと感じました。ここで学ばせていただいたことを学校に持ち帰り、少しでも還元したいです。この厳しいコロナ禍でも、安全に研修が実施できるようサポートして下さったスタッフの皆さんにも心から感謝申し上げます。

菊池史織

本 研修の参加に至っては、本校の教職員の多大な協力と声援がありました。志願の際には急な申し出にも関わらず管理職が快く対応してくれましたし、研修や授業見学の際には学年団や部活動顧問が理解を示し協力してくれました。当たり前と思わず常に感謝し、学園と生徒に還元すべくこれからも努めます。



授業実践を経て 学習者(児童・生徒)の変化、反応

菊池史織



初 めは「クラスメイトと一緒にやるゲーム」くらいの非常に軽い思いで過ごしていた生徒たちも、次第に「今日の活動は楽しかったし、〇〇だっていうことがわかったから、これから□□するようにしたい。」と口にする様になりました。教員が教えるのではなく、生徒自らが学ぶ姿勢をより大切にしています。

金城裕哉



〇 が大切だ」「〇〇に気付いた」という教訓めいた振り返りで留まらず、「だから、〇〇していきたい」といった行動の意志を示す振り返りが見られたことが、授業実践における成果でした。外国語の授業でも、友達の話に耳を傾ける、自分の話したいことを進んで話す姿が以前よりも見られるようになりました。

小島寛子



少 しずつではありますが、自分の当たり前は他の人にはそうではないのかも、と考えるようになってきたようです。またより良い環境(今はクラス)作りには、他人は勿論自分の気持ちも大事、だからこそ互いに気持ちを言い合えるような雰囲気作りを意識する生徒が出てきたと思います。

鳥原大嗣



相 手に気を配らなければいけないことには、怪我などの見目で分かることと、言葉にしないと分からないことがあると分かったので、相手の気持ちを考えたり、敏感に雰囲気を感じ取る必要があると分かった。」など、今回の学びを今後の生活に生かそうという姿勢が見られたことに大変うれしく思いました。

三枝涼輔



授 業後の子どもたちを見てみると、温かい言葉が増えたと感じます。日常的に助け合ったり、受け入れ合ったりする様子が見られるようになりました。また、WSを取り入れた授業の有効性を感じました。子どもたちが楽しそうに、前向きに授業に参加していました。

森 倫範



学 生はこれまで以上に相手や自分の気持ちをお互いに考えてくれるようになり、助け合うようになってくれました。4月から新しく海外からの学生も入学する予定です。その時学生が、多文化共生の学びからさらに新しい発見をし、後輩に伝えてくれるのではないかと今から期待しています。

渡辺 香



以 前は、自分の意見を押し通そうとしたり、違う意見に対して拒否反応を示したりする児童がいました。この授業実践を経て、自分とは違う意見や立場の人の背景を考える視点や余裕をもてる児童がぐっと増えました。さらに相手に対して自分にできることを考えて行動できる児童も出てきています。

ご協力いただいた皆様

- ・かながわ開発教育センター (K-DEC)
- ・小野行雄氏 (かながわ開発教育センター)
- ・公益財団法人海外日系人協会
- ・横浜市立北上飯田保育園
- ・太田亜理佐氏
- ・公益財団法人横浜市国際交流協会鶴見国際交流ラウンジ
- ・JICA 横浜教師海外研修過年度参加者の皆様

スタッフ

- ・JICA 横浜 石亀敬治
- ・JICA 横浜 中野貴之
- ・株式会社メディア総合研究所 (2021 年度運営事務局)



独立行政法人国際協力機構
横浜センター (JICA 横浜)

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

Tel : 045-663-3220 (直通)

Fax : 045-663-3265

E-mail : yictpp@jica.go.jp

<https://www.jica.go.jp/yokohama/>



